

名古屋市
新たな劇場の基本構想

2022 年（令和 4 年）2 月

新たな劇場の基本構想 目次

はじめに	...	1
1 市民会館の現状と課題	...	2
（１） 現市民会館の施設立地環境	...	2
（２） 現市民会館の概要	...	3
（３） 現市民会館整備の必要性	...	12
（４） 整備候補地の検討	...	13
2 本市および周辺地域における類似施設の状況	...	14
（１） 市内の主な劇場・ホールと文化事業	...	14
（２） 周辺市の主な劇場・ホールの立地状況	...	18
（３） 本市および周辺市ホールの現状	...	19
（４） 市内の大・中規模ホール不足がもたらす課題	...	22
3 劇場を取り巻く情勢	...	23
（１） 国の施策の動向	...	23
（２） 本市の上位・関連計画の整理	...	26
（３） 上位・関連計画等における金山地区のまちづくりの方向性	...	31
（４） 本市実施のアンケート結果の整理	...	33
（５） 新型コロナウイルス感染症の影響と対策	...	34
4 新たな劇場の方向性	...	35
（１） 現状の課題点と本市が目指す方向性	...	35
5 基本理念	...	36
（１） 基本理念	...	36
（２） 市内文化施設との有機的連携	...	38
6 管理運営の考え方	...	39
（１） ポストコロナにおける劇場の考え方	...	39
（２） 自主事業の考え方	...	40
（３） 貸館事業の考え方	...	43
（４） 運営組織の考え方	...	44
（５） 広報宣伝の考え方	...	48
（６） 評価制度の考え方	...	48

7	施設の考え方	…	49
(1)	施設整備の基本的な考え方	…	49
(2)	新たな劇場の需要及び課題	…	51
(3)	施設構成	…	53
(4)	敷地環境	…	59
(5)	敷地における整備方針	…	60
8	整備事業概要の検討	…	61
(1)	事業規模	…	61
(2)	期待できる経済波及効果	…	61
(3)	事業手法	…	62
9	スケジュール（案）	…	63

はじめに

昭和 47 年 10 月 1 日、名古屋市の人口が 200 万人を突破した記念事業として、本市の芸術文化の振興および市民福祉の向上を図ることを目的に、名古屋市民会館が開館しました。開館当時の新聞では「国立劇場しのぐ大ホール」と謳われ、本市を代表するホール施設として、長く市民に親しまれてきました。しかしながら、開館から約 50 年が経過し、施設の老朽化が著しく、また、バリアフリーが不十分であるなど、様々な課題を抱えています。

加えて、近年、市内の大・中規模の劇場・ホールの閉館が相次いだ影響により、現在、市内文化施設の利用率は高い水準で推移しており、公演会場となるホールの確保が困難な状況が生じています。ホール施設の利用機会の損失は、文化芸術の鑑賞機会の損失、ひいては文化芸術の衰退につながりかねない問題です。

そこで本市では、各種調査検討を重ねるとともに、令和元年度より「市民会館の整備検討懇談会」を設置し、学識経験者、劇場・ホールに様々な立場に関わりを持つ有識者らによる議論等を通じて、新たな劇場の設置目的や規模・機能の方向性、管理運営のあり方等について様々な議論を重ねてきました。

本基本構想は、これまでの検討結果を踏まえて、本市において必要とされる「新たな劇場」の整備のあり方について示したものです。

1 市民会館の現状と課題

(1) 現市民会館の施設立地環境

現市民会館は名古屋圏第2位の乗降客数を誇る金山総合駅（1日あたりの乗降客数 約48万人※令和元年度）から約400m（徒歩約5分）の好立地に位置しています。また、地下連絡通路で直結しており、アクセスも良好です。

施設北側には、名古屋フィルハーモニー交響楽団（以下、「名フィル」といいます。）の練習施設でもある音楽プラザが設置されており、金山北地区の文化芸術拠点となっています。また、南側には商業施設であるアスナル金山が位置し、周辺商店街やその他施設とともに、地域の賑わいを形成しています。

その他、古沢公園駐車場（241台）、アスナル金山駐車場（197台）など駐車施設も充実しています。



（２）現市民会館の概要

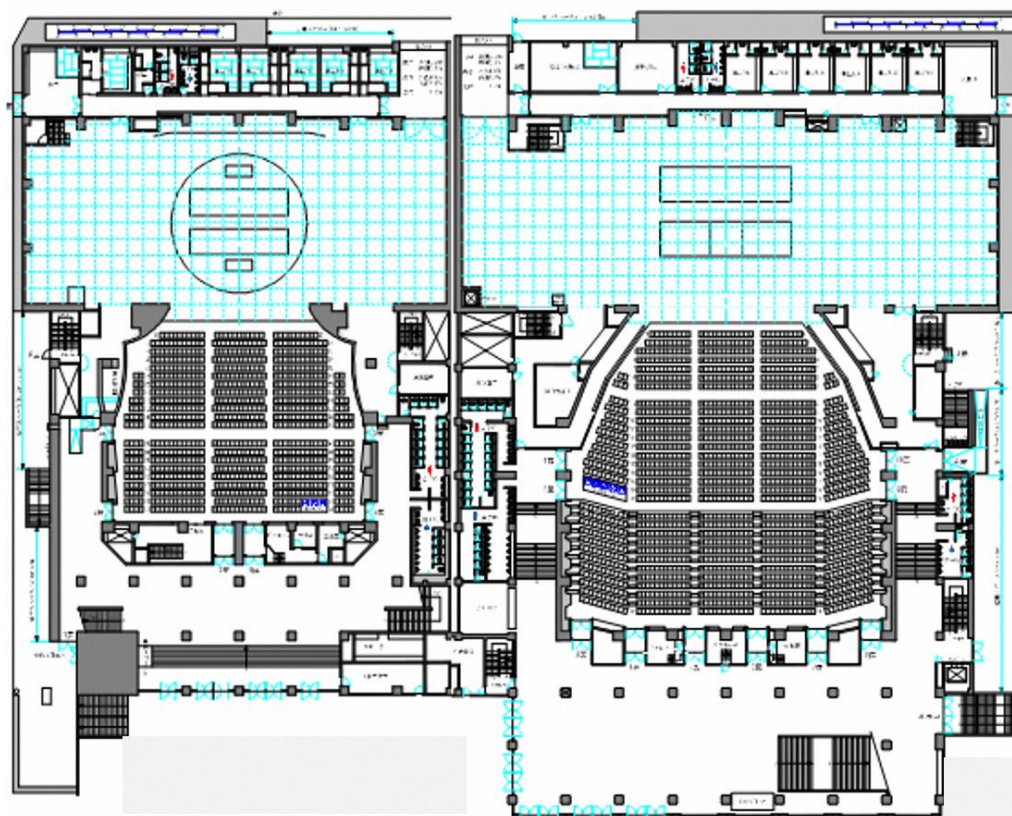
ア 施設概要



正式名称	名古屋市民会館（日本特殊陶業市民会館）
所在地	〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山一丁目5番1号
開館年	昭和47（1972）年10月1日（築約50年経過）
建築	鉄骨鉄筋コンクリート、一部鉄筋コンクリート造 地上6階、地下2階、塔屋1階建
面積	敷地面積：14,205 m ² 建築面積：9,370 m ² 延床面積：28,245 m ²

イ 諸室構成

中ホール（ビレッジホール）	大ホール（フォレストホール）
- 客席 1,146 席 (車椅子席 3 席) - 舞台面積 1,061 m² (間口 16m、奥行 21m、高さ 7.2m) - 用途 日本舞踏、民謡、演劇 - 楽屋 5 室：和室 - 控室 2 室：和室	- 客席 2,291 席 (車椅子席 5 席) - 舞台面積 1,373 m² (間口 20m、奥行 21m、高さ 11.5m) - 用途 オーケストラ、オペラ、バレエ - 楽屋 7 室：洋室 - 控室 2 室：洋室



階	室名		規模	
3F	会議室	第1会議室	179 m ²	90 名
		第2会議室	64 m ²	30 名
		特別会議室	54 m ²	20 名
2F	レストラン		234 m ²	
B1F	リハ室	第1リハーサル室	151 m ²	19.1m×7.9m
		第2リハーサル室	117 m ²	15.2m×7.7m
	楽屋	楽屋1,5 (大ホール)	36 m ²	20 名
		楽屋2～4 (大ホール)	72 m ²	30 名
		楽屋6,7 (大・中ホール兼用)	36 m ²	15 名
		楽屋101, 控室 (中ホール)	50 m ²	12 名
		楽屋102～107 (中ホール)	20 m ²	2 名
		控室 (中ホール)	30 m ²	



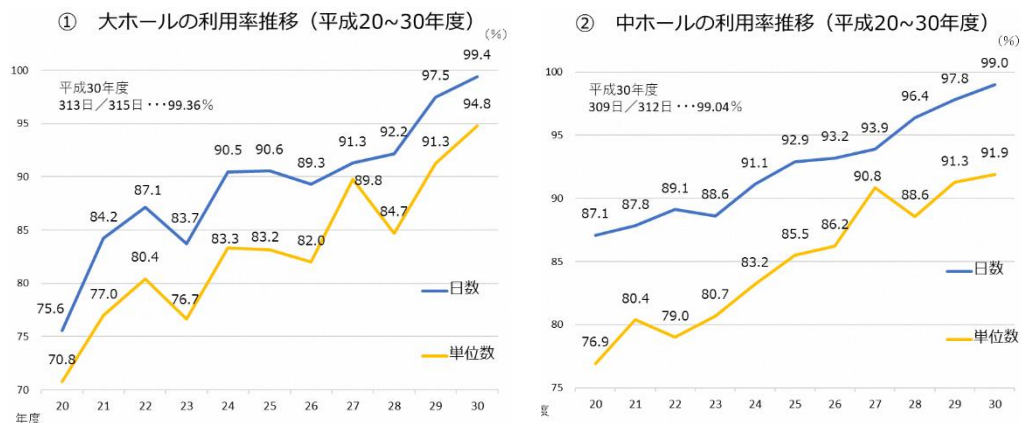
ウ 利用状況

(ア) 利用率推移

平成 20 年に愛知厚生年金会館（1,666 席）、平成 22 年に愛知県勤労開館（1,488 席）が閉館したことをきっかけに、大ホール、中ホールともに利用率は増加傾向にあります。加えて、平成 29 年度から 30 年度にかけては、愛知県芸術劇場と公会堂の大規模改修による工事休館が重なったこともあり、平成 30 年度は大ホールで 99.4%、中ホールで 99.0%と非常に高い利用率となりました。

このような施設の高稼働状態に加え、平成 30 年度の抽選倍率は大ホールが約 8 倍、中ホールが約 6 倍と高くなるなど、ホールを使いたくても使えないという状況が生じており、施設の利用機会や文化芸術の鑑賞機会の損失につながっています。

また、維持管理についても、施設の高稼働状態が続いているため、補修工事の日程確保が困難という課題を抱えています。

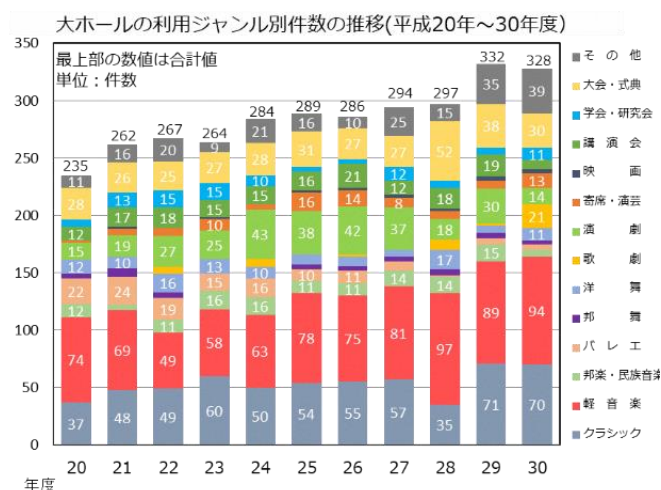


(イ) 利用ジャンル・利用主体

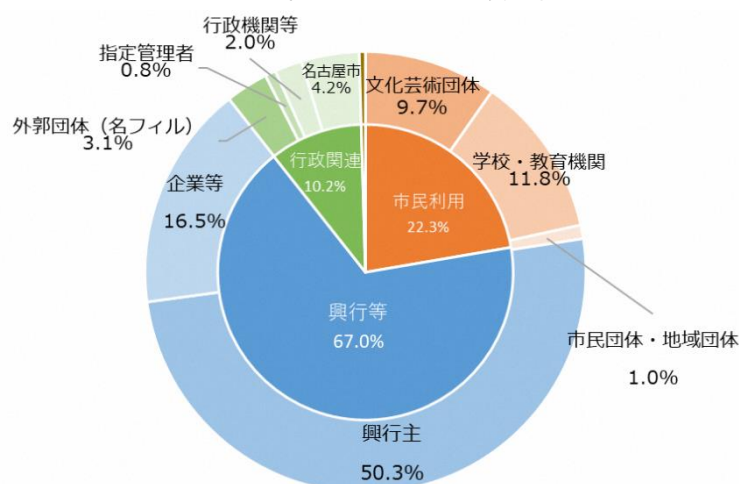
a 大ホール

多少の増減はあるものの、利用件数は年々増加傾向にあり、平成 30 年度は 328 件となっています。このうち、文化芸術関連の公演や発表会が 237 件（72.3%）となっており、中でも「軽音楽」が 94 件（28.7%）、「クラシック」が 70 件（21.3%）と多く、音楽関係が全体の約半分を占めています。いずれのジャンルも大きな変化は見受けられませんが、近年は文化芸術関連以外の「大会・研究会」が増加傾向にあります。

利用主体は「興行等」の利用が 7 割近くを占め、2 割を「市民利用」、残る 1 割を「行政関連」が占めています。「興行等」の内訳は、地元プロモーターやテレビ局等による商業的公演が大半を占め、「市民利用」は「学校・教育機関」や「文化芸術団体」による発表会等の利用が多くなっています。「行政関連」では、市の外郭団体である名フィルの定期公演のほか、名古屋市教育委員会の主催事業などが数多く行われています。



大ホールの利用主体（平成 28・29 年度の累計）



利用規模は、2,000人以上2,100人未満の利用が98回（10.9%）と一番多く、需要が高いことが分かります。また、1,500人以上1,700人未満にかけての利用も計166回（18.6%）あり需要が高いです。一方、2,200人以上の利用も70回（7.8%）あり、そのうち「興行主」の利用が52回、「市民利用」が14回を占めています。また、「市民利用」のうち9回は大学等の入学式・卒業式といった文化芸術関連以外の催しとなっています。1,000人以上2,100人未満の利用範囲は全体の約7割を占めています。

利用者種別の内訳をみると、「市民利用」は利用規模にばらつきがあることに対して、「興行等」は1,000人以上2,200人未満の利用で約9割を占めており、「興行等」は「市民利用」に比べて、より大規模なホールを求めていることが推測されます。

利用者種別と利用規模のクロス集計（平成28・29年度の累計）

利用者種別/ 利用規模		2,200人以上	2,100~2,099人	2,000~1,999人	1,900~1,899人	1,800~1,799人	1,700~1,699人	1,600~1,599人	1,500~1,499人	1,400~1,399人	1,300~1,299人	1,200~1,199人	1,100~1,099人	1,000~999人	900~899人	800~799人	700~699人	600~599人	500~499人	400~399人	300~299人	200~199人	100~99人	総計	
市民利用	文化芸術団体	4		6		5	5	9	3	5	12	5	2	6	2	4	4	9	3	1			2	87	9.7%
	学校・教育機関	10	1	5	1	4	2	11	7	3	11	13	4	13	2	2	1	6	5	2	1	1	1	106	11.8%
	市民団体・地域団体			1				1	2	1		1	1	2										9	1.0%
	興行	52	20	61	34	41	21	27	53	15	9	28	26	35	17	5		4	1				1	450	50.3%
興行等	企業等	3	1	11	5	4	1	10	10	10	14	11	2	20	6	6	5	11	4	5	9			148	16.5%
	外郭団体（名ファイル）			1	1	2	2	6	3	4	3	2	4											28	3.1%
	指定管理者										2					3			1	1				7	0.8%
	行政機関等			10	1					1		1	2			3								18	2.0%
行政関連	名古屋市	1		2	1	3	1	21	2			1	1		4					1				38	4.2%
	その他		1	1		1			1															4	0.4%
総計		70	23	98	43	60	32	85	81	39	51	62	42	76	31	23	10	30	14	10	10	1	4	895	
		7.8%	2.6%	10.9%	4.8%	6.7%	3.6%	9.5%	9.1%	4.4%	5.7%	6.9%	4.7%	8.5%	3.5%	2.6%	1.1%	3.4%	1.6%	1.1%	1.1%	0.1%	0.4%		100.0%

利用ジャンルについては、最も公演回数が多いものが「軽音楽」で、327回（36.5%）となっています。また、利用規模は900人以上が大半となっていますが、2,200人以上の利用が31回あり、前述した利用者種別と利用規模の分析結果を踏まえると、「興行主」の「軽音楽」の利用がより大規模なホールを必要としていると推測されます。一方、「演劇」は1,200人以上2,100人未満、「クラシック」は1,000人以上2,100人未満の範囲がメインボリュームとなっています。

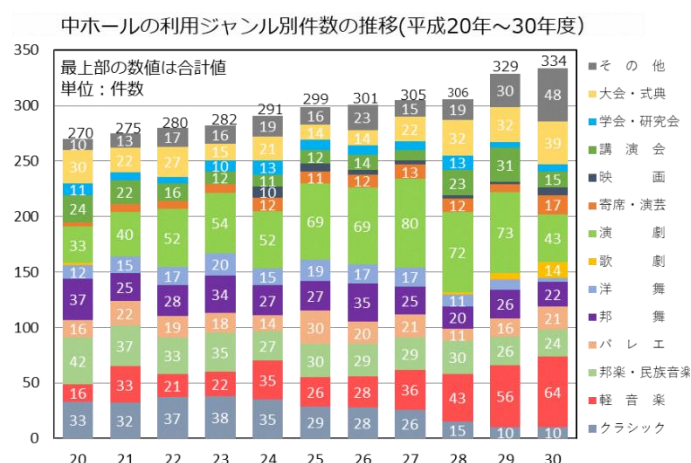
利用ジャンルと利用規模のクロス集計（平成28・29年度の累計）

(公演回数)																									
利用ジャンル/ 利用規模	2,200人以上	2,100~2,199人	2,000~1,999人	1,900~1,899人	1,800~1,799人	1,700~1,699人	1,600~1,599人	1,500~1,499人	1,400~1,399人	1,300~1,299人	1,200~1,199人	1,100~1,099人	1,000~999人	900~899人	800~799人	700~699人	600~599人	500~499人	400~399人	300~299人	200~199人	100~99人	総計		
クラシック	6	1	15	2	6	7	5	8	8	10	8	7	11	3	1	3	2							103	11.5%
軽音楽	31	18	40	26	25	10	10	34	13	7	21	18	29	15	3	1	8	5	3	10				327	36.5%
歌劇			2	9	9	4	8			1			4		4									41	4.6%
演劇	6		29	4	11	4	33	16	8	11	9	5	1		1		4	2						144	16.1%
洋舞	3						1	3	1	1	4		2	2	1		2	2	2			2		26	2.9%
邦楽・邦舞		1			4	1	8	1	1	8	4	1			1		1							31	3.5%
寄席・演芸	12	1	5			4		6	1		1		4											34	3.8%
映画			1		1		1								2								1	6	0.7%
講演会等	11	1	4	2	3	2	18	12	7	11	14	7	23	11	10	6	12	4	5			1	164	18.3%	
その他	1	1	2		1		1	1		2	1	4	2				1	1			1		19	2.1%	
総計	70	23	98	43	60	32	85	81	39	51	62	42	76	31	23	10	30	14	10	10	1	4	895		
	7.8%	2.6%	10.9%	4.8%	6.7%	3.6%	9.5%	9.1%	4.4%	5.7%	6.9%	4.7%	8.5%	3.5%	2.6%	1.1%	3.4%	1.6%	1.1%	1.1%	0.1%	0.4%	100.0%		

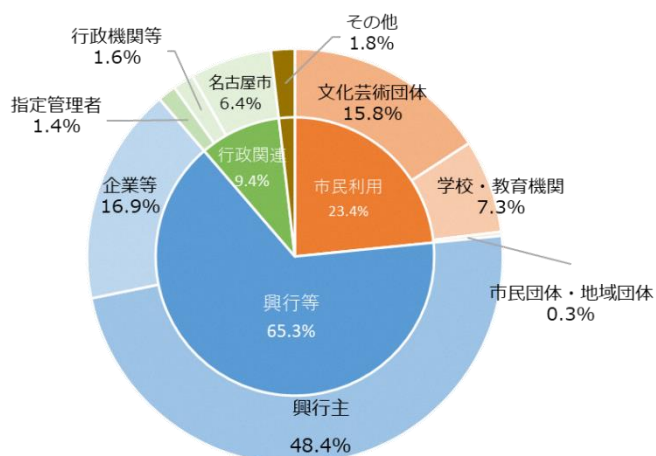
b 中ホール

年間利用件数は年々増加しており、平成 30 年度は 334 件となっています。このうち文化芸術関連の公演や発表会が 219 件（65.6%）となっており、中でも「軽音楽」は 64 件（19.2%）、「演劇」が 43 件（12.9%）と多く、全体の 30%以上を占めています。舞台設備の違いから、大ホールに比べて「邦舞」等の利用件数が多いという特徴があります。大ホールと同様に、近年は文化芸術関連以外の「大会・研究会」が増加傾向にあり、さらに、近年は「演劇」が増加傾向で、平成 29 年度は平成 20 年度の 2 倍以上の件数となっています。

利用主体では「興行等」の割合が 6 割以上を占め、2 割強を「市民利用」、残る 1 割が「行政関連」となっています。大ホールに比べて「文化芸術団体」が占める割合が高く、バレエの発表や花道を活用した邦舞・邦楽などの公演が多く行われています。「行政関連」では、名古屋市教育委員会の主催事業や行政機関による説明会などが多く行われています。



中ホールの利用主体（平成 28・29 年度の累計）



利用規模は、「市民利用」「興行等」「行政利用」のいずれも 500 人以上の利用が大半で約 7 割を占めています。とりわけ、600 人以上 700 人未満の利用が最も多く、全体の約 2 割を占めており、600 人以上 900 人未満にまで広げると全体の 5 割近くを占めることになります。

1,100 人以上を集客する利用は全体の 4.4%に止まり、大ホールに比べると満席に近い利用は多くはありません。

利用者種別と利用規模のクロス集計（平成 28・29 年度の累計）

(公演回数)

利用者種別/ 利用規模		1,100人 以上	1,000~ 1,099人	900~ 999人	800~ 899人	700~ 799人	600~ 699人	500~ 599人	400~ 499人	300~ 399人	200~ 299人	100~ 199人	総計	
市民 利用	文化芸術団体	9	21	11	14	19	21	26	12	9	5	7	154	15.8%
	学校・教育機関	2	8	4	12	6	11	10	8	6	2	2	71	7.3%
	市民団体・地域団体				3								3	0.3%
興行等	興行	22	58	57	63	88	106	35	11		3	28	471	48.4%
	企業等	7	14	7	20	16	17	10	11	23	33	7	165	16.9%
行政 関連	外郭団体（名フィル）												0	0.0%
	指定管理者				1	4		4	1	4			14	1.4%
	行政機関等					3	1		1		5	6	16	1.6%
	名古屋市		1	16	1	2	36		2		4		62	6.4%
その他	その他	3	2		1			12					18	1.8%
総計		43	104	96	114	138	192	97	46	42	52	50	974	
		4.4%	10.7%	9.9%	11.7%	14.2%	19.7%	10.0%	4.7%	4.3%	5.3%	5.1%	100.0%	

利用ジャンルについては、全ジャンルで 500 人以上の利用に集中しています。最も公演回数が多い利用ジャンルは「演劇」で約 4 割を占め、その次が「軽音楽」で 2 割を占めています。「演劇」は特徴が見られ、600 人以上 800 人未満の利用が特に多く、演劇全体の 5 割を占めています。

利用ジャンルと利用規模のクロス集計（平成 28・29 年度の累計）

(公演回数)

利用ジャンル/ 利用規模	1,100人 以上	1,000~ 1,099人	900~ 999人	800~ 899人	700~ 799人	600~ 699人	500~ 599人	400~ 499人	300~ 399人	200~ 299人	100~ 199人	総計	
クラシック		1	3	5	1	4	2	3	1	1	1	22	2.3%
軽音楽	9	23	20	13	16	18	23	12	23	32	6	195	20.0%
歌劇		6			3							9	0.9%
演劇	4	34	47	43	82	125	40	5	6	1	27	414	42.5%
洋舞	1	1	1	3	10	5	11	5	6	2	1	46	4.7%
邦楽・邦舞	7	13	8	10	7	20	3	3		3	4	78	8.0%
寄席・演芸	11	6	6	8		1		8				40	4.1%
映画		1	1	2		1						5	0.5%
講演会等	9	17	8	29	19	18	16	10	6	13	9	154	15.8%
その他	2	2	2	1			2				2	11	1.1%
総計	43	104	96	114	138	192	97	46	42	52	50	974	
	4.4%	10.7%	9.9%	11.7%	14.2%	19.7%	10.0%	4.7%	4.3%	5.3%	5.1%	100.0%	

エ 施設維持管理および施設運営面での課題

(ア) 施設の老朽化

開業後約 50 年が経過し、劇場の法定耐用年数（41 年）も超過しています。最も重要度が高い一部設備のみ平成 12～13 年度に改修工事を実施しましたが、その後、既に 20 年近くが経過し、老朽化等による故障によりいつ長期休館してもおかしくない状態にあります。特に、電源・空調・給排水管など施設の基幹部分の故障や不具合が多発しています。

また、大ホール・中ホールともに特定天井（脱落によって重大な危害を生ずるおそれがある天井）に該当しており、改修には工期が 18 カ月以上必要であると試算されています。

故障・不具合の事例

建 築 : 屋上防水劣化、雨漏り、外壁タイルの剥離
設 備 : 給排水管、非常用発電設備、始動用電源装置の劣化
空 調 : 中央監視装置の無停電電源の能力低下
舞台機構 : 幕類劣化、防災機能低下、ロープ・滑車等の摩耗
舞台照明 : 配線の劣化、熱による灯具の変形劣化 等



ホワイエの天井から漏水



舞台裏楽屋の大規模な浸水

(イ) 利用者の利便性、快適性にかかる施設構造上の課題

a 不十分なバリアフリー対策等

現市民会館は、階段のみの来場者動線が多く、足が不自由な方にとっては来場や館内移動が困難な状態です。施設の構造上、バリアフリー対応には限界があり、スタッフ等の介添なしに客席までたどり着くことができない場合もあります。

また、トイレは絶対数が不足していることに加え、男女比が利用実態とかい離していることから、幕間にはトイレに行列が発生してしまいます。

出演者らが利用するバックヤード・楽屋等の動線にも階段が多く、通路幅も十分に確保されていません。搬出入スペースは狭いうえ、住宅等に面するため、深夜・早朝

の搬出入時は周辺住民への騒音等の配慮が必要です。楽屋はその規模（数・面積）が十分でないことに加え、配置された階が分かれており移動に苦勞する構造となっています。

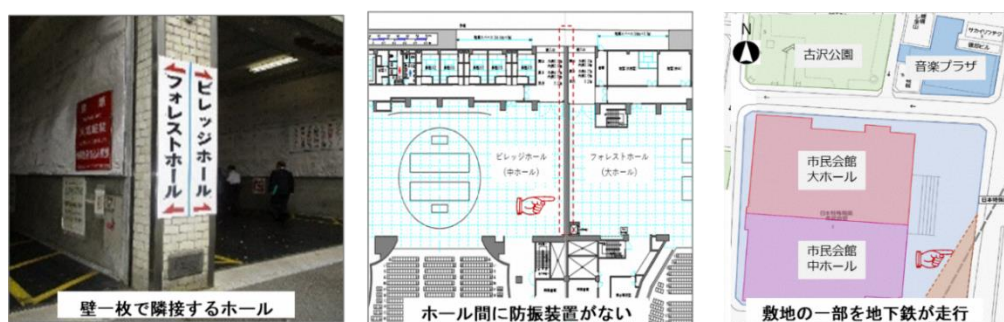


b 遮音性能

大ホールと中ホールは壁一枚で隣接しており、相互の音・振動が伝播する構造です。そのため、大音量の公演がある場合はホール間の利用調整が必要です。

また、敷地内には地下鉄名城線が通っており、走行時の振動音が舞台下の奈落部分で増幅され、舞台上や客席にも伝播します。

これらの課題は、現行の施設構造のままでは、解決が困難です。



（3）現市民会館整備の必要性

現市民会館は老朽化が深刻であり、施設の構造的にもバリアフリー等、多様化する利用者のニーズに応えられていないといった課題を抱えています。過年度に実施された調査検討においては、改修によってこれらの課題を解決することは困難だとされています。

(4) 整備候補地の検討

ア 大規模ホールの整備地に求められる立地条件と候補地の検討

- ・都心部、複数鉄道路線の結節点
…多方面から訪れやすい充実した公共交通機関の近接
- ・快適に辿り着ける最適な来場者動線
…来場者がハレの舞台に向かうに相応しいアクセス環境
- ・大規模整備用地の有無
…現市民会館街区（14,200 m²）と同規模以上の用地が数年以内に確保可能
- ・相乗効果の期待できる周辺環境
…大規模ホールとの相乗効果が期待できる周辺施設や街並み

イ 候補地の検討

候補地	名古屋駅 周辺	金山駅 周辺	栄中心部 (矢場町)	千種駅 周辺	伏見駅 周辺	鶴舞駅 周辺
交通 アクセス (乗入路線)	◎ 5社9路線	◎ 3社5路線	○ 2社3路線	○ 2社2路線	△ 1社2路線	○ 2社2路線
1日の 乗車人員	789千人	232千人	133千人	55千人	46千人	34千人
用地確保 (市有地等の有無)	× 那古野小跡地 7,000 m ² 公募済	◎ 市民会館街区 古沢公園街区 約20,000 m ²	△ 白川公園 (広域避難場所)	× 候補地無し	△ 御園小学校 +下園公園 12,800 m ²	△ 鶴舞公園
来場者動線 (雨天対応等)	○ 地下街等	◎ 駅前至近 地下通路あり	△ 矢場町駅から 徒歩10分以上	×	○ 徒歩数分	○ 徒歩数分
周辺環境 (飲食施設等)	◎ 飲食店豊富	◎ 飲食店豊富 (アスナル)	◎ 百貨店 飲食店	△ 不足	○ ホテル 飲食店	△ 不足
評価	× 候補地無し	◎	△	× 候補地無し	△	△

以上により、新たな市民会館の整備候補地は、現在立地している金山が適地と考えられます。そのため金山において再整備することを前提に、今後の検討を進めます。

2 本市および周辺地域における類似施設の状況

(1) 市内の主な劇場・ホールと文化事業

本市が所有管理するホールは23施設あり、本市を代表するホール施設である市民会館のほか、市の文化芸術を創造発信する芸術創造センター、青少年の活動を支援するための青少年文化センターなど、様々な文化施設があります。また、市民へ身近な文化活動の場を提供する文化小劇場は、中区を除く15区に整備されています。なお、座席数が1,000席以上のホールは、公立・民間あわせて7施設で、名古屋駅の南東エリアに集積しています。

ア 本市内の主なホールの立地状況



本市が所有管理するホールは、その設置条例や各種計画等によりその位置づけが定められています。

(ア) 名古屋市民会館

条例上の 目的	芸術文化の振興及び市民福祉の向上 を図る	
文化芸術 推進計画	【鑑賞型】 ○優れた文化芸術公演の鑑賞の場 ○市民の文化活動・発表の場 ○地域の賑わいを創出する場	
施設構成	ホール、リハーサル室、楽屋、会議室	
延床面積	28,245 ㎡	
席数	フォレストホール：2,291 席、ビレッジホール：1,146 席	
利用者数	(H. 30) 747,092 人 (H. 31) 643,848 人	
利用率	(H. 30) フォレストホール：99.4%、ビレッジホール：99.0% (H. 31) フォレストホール：86.4%、ビレッジホール：87.1%	

(イ) 名古屋市公会堂

条例上の 目的	市民文化の向上及び住民福祉の増進 を図る	
文化芸術 推進計画	【鑑賞型】 ○市民が利用する集会施設 ○文化芸術公演の鑑賞の場	
施設構成	ホール、集会室、和室、特別室	
延床面積	11,938 ㎡	
席数	大ホール：1,552 席、4 階ホール：780 名	
利用者数	(H. 30) (改修のため閉館) (H. 31) 318,887 人	
利用率	(H. 30) (改修のため閉館) (H. 31) ホール：80.3%、4 階ホール：75.4%	

(ウ) 芸術創造センター

条例上の 目的	芸術文化の創造及び芸術文化活動の交流 の場を市民に提供するとともに、芸術文 化に関する情報資料の共用等を行うこと により、芸術文化の振興に寄与する	
文化芸術 推進計画	【創造発信型】 ○名古屋らしい文化芸術の創造拠点 ○文化芸術活動の交流拠点 ○文化芸術関連の情報収集・発信拠点 ○文化芸術における専門人材の配置及び 育成する場	
施設構成	ホール、リハーサル室、練習室、会議室、資料室	
延床面積	5,976 m ²	
席数	ホール：640 席	
利用者数	(H. 30) 159,198 人 (H. 31) 149,406 人	
利用率	(H. 30) 99.5% (H. 31) 94.9%	

(エ) 青少年文化センター

条例上の 目的	芸術文化の創造及び芸術活動の交流の場を市民に提供することにより青少年の芸術文化の振興に寄与する	
文化芸術 推進計画	【創造発信型】 ○青少年の文化芸術活動・交流拠点 ○青少年の文化芸術関連の情報収集・発信拠点 ○創造・発信機能を担う人材を育成する場	
施設構成	ホール、リハーサル室、練習室、音楽練習室、スタジオ、編集室、研修室、ビデオルーム	
延床面積	7,902 m ²	
席数	724 席	
利用者数	(H. 30) 230,446 人 (H. 31) 201,745 人	
利用率	(H. 30) 99.5% (H. 31) 96.7%	

(オ) 文化小劇場（15 施設）

条例上の 目的	市民の身近な文化活動の場を提供することにより、市民文化の振興に寄与する
文化芸術 推進計画	○地域文化発信・創造の拠点 ○市民が身近に文化にふれる場 ○市民の参画と協働の場 ○地域に密着した事業を展開する場 ○各館が連携し市内全域に質の高い文化芸術事業を提供する場
施設構成	ホール、練習室等
延床面積	－
席数	約 230 席～約 450 席
利用者数	(H. 30) 717, 023 人 (H. 31) 595, 485 人
利用率	(H. 30) 96. 0% (H. 31) 90. 2%

イ 本市が実施している文化事業

本市では、昭和 53 年 3 月に「市民文化をすすめるための提言」を受け、昭和 57 年度に文化基金を設置しました。その翌年には名古屋市文化振興事業団が設立され、総合舞台芸術公演など事業団による創造的な自主事業をはじめ、子どものための巡回劇場や市民芸術祭の実施など、市民が文化芸術に触れる機会や地元芸術家の発表機会の拡充に取組みました。

その後、平成 21 年度に「名古屋市文化振興に関する有識者懇談会」の提言を受け、名古屋市文化振興計画を策定し、平成 25 年の重点プロジェクト改定を経て、平成 29 年に「名古屋市文化振興計画 2020」を策定しました。令和 3 年 10 月に策定した「名古屋市文化芸術推進計画 2025」に基づき、幅広い市民が文化芸術に**親しみ**、文化芸術活動や文化・歴史資源を**磨き**、しっかりとした推進体制や文化施設がそれらを**支え**、文化芸術をまちづくりに**活かしていく**「文化芸術が活きるまち・芸どころ名古屋」としての取り組みを積極的に進めます。

(2) 周辺市の主な劇場・ホールの立地状況

愛知県内（本市内を除く）にある1,000席以上のホールは29施設あり、尾張地区・三河地区の鉄道沿線に広くに整備されています。その内、客席が1,500席以上のホールは5施設あります。



施設名	座席数	開館年	施設名	座席数	開館年
1 豊田市民文化会館	1708	昭和56年	16 常滑市民文化会館	1181	昭和58年
2 蒲郡市民会館	1598	昭和48年	17 飛島村中央公民館	1104	昭和57年
3 一宮市民会館	1588	昭和49年	18 岡崎市民会館	1100	昭和42年
4 刈谷市総合文化センター	1541	平成22年	19 みよし市勤労文化会館	1033	平成5年
5 瀬戸市文化センター	1504	昭和57年	20 東海市芸術劇場	1025	平成27年
6 アイプラザ豊橋	1469	昭和51年	21 春日井市民会館	1022	昭和41年
7 江南市民文化会館	1400	昭和59年	22 碧南市文化会館	1016	昭和54年
8 小牧市市民会館	1334	昭和46年	23 日進市民会館	1015	平成元年
9 豊川市文化会館	1328	昭和53年	24 岡崎市竜美丘会館	1008	昭和55年
10 稲沢市民会館	1304	平成7年	25 幸田町民会館	1004	平成8年
11 半田市福祉文化会館	1300	昭和63年	26 豊田市コンサートホール	1004	平成10年
12 犬山市民文化会館	1220	昭和57年	27 知立市文化会館	1004	平成12年
13 西尾市文化会館	1217	昭和55年	28 知多市勤労文化会館	1001	昭和60年
14 津島市文化会館	1217	平成9年	29 ライフポートとよはし	1000	平成6年
15 安城市民会館	1200	昭和47年			

※ 各施設のHPから調査

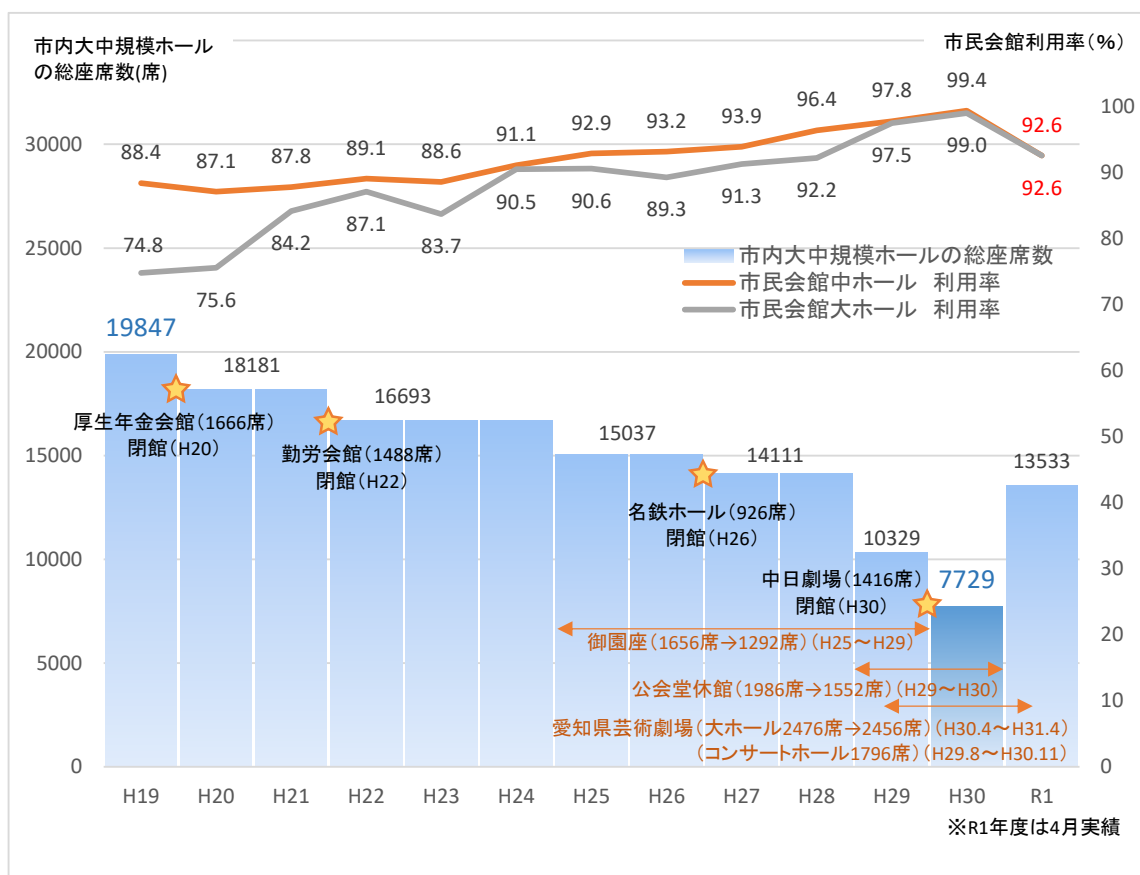
(3) 本市および周辺市ホールの現状

ア 市内の大・中規模ホールの座席総数

近年、厚生年金会館（国）、勤労会館（県）、名鉄ホール（民間）、中日劇場（民間）の4施設が閉館し、市内の大・中規模ホールの座席総数は大きく減少しました。平成29年度から30年度にかけては、名古屋市公会堂および愛知県芸術劇場の改修工事が重なったこともあり、平成30年度には、平成19年度当時と比べ、4割弱まで減少しています。

座席総数の減少と反比例して、現市民会館を始め市内主要ホールの利用率は上昇しており、近年は高止まりの傾向にありました。令和元年4月末には名古屋市公会堂及び愛知県芸術劇場の改修工事が完了したことに伴い、こうした状況はいくらか緩和されたものの、令和元年度における現市民会館の利用申込み状況を鑑みると、新型コロナウイルス感染症が収束したのちは、引き続き9割以上の高い利用率で推移することが想定されます。

市内の大・中規模ホールの座席総数と現市民会館の利用率の推移



イ 市内大・中規模ホール不足の影響

(ア) 受付状況

前述のとおり、市内大・中規模ホールの相次ぐ閉館により、開館している市内主要ホールの需要が高まり、利用率も非常に高い水準で推移しています。利用者が会場の確保を優先するあまり、その利用実態よりも規模が大きくても、受付時期の早い会場に申込が集中するなどし、施設の高稼働率が解消しない状態にありました。

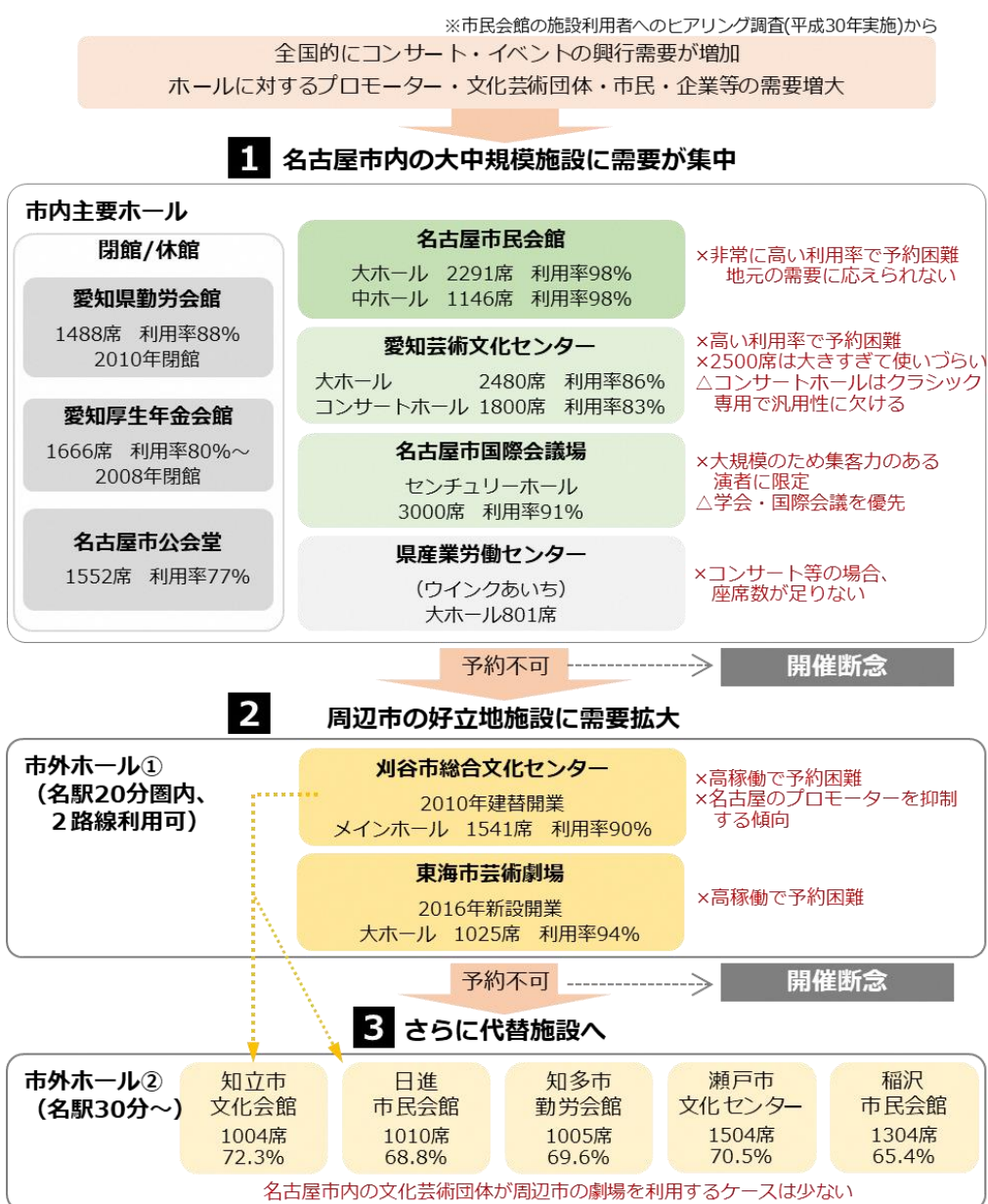
名古屋市内の大・中規模ホールの申し込み時期と条件（一般利用）

抽選 申込日	名古屋 国際会議場 メインホール (3000席)	愛知県 芸術劇場 大ホール (2480席) コンサートホール (1800席)	名古屋 市民会館 大ホール (2291席) 中ホール (1146席)	名古屋 市公会堂 大ホール (1552席)	芸術 創造 センター (640席)	青少年 文化 センター (724席)
随時受付	国際会議で使用する 場合					
48ヶ月前	全国的な会議で 全施設を使用する場合	(優先申し込み) 特に優れた舞台芸術公演 長期の準備期間を要するもの				
36ヶ月前			全国的な規模の行事 の場合 全日2日以上連続利用 の場合			
24ヶ月前	全国的な会議で 一部施設のみを使用する場合、 又は目的を問わず 全施設を使用する場合	全日3日以上 連続利用（大ホール）			芸術文化活動で 本市域を活動の基盤 とする個人や団体が 自ら企画・主催・出演 する場合	青少年自ら使用 する場合、 青少年のために使用 する場合
13ヶ月前	【制約条件なし】		【制約条件なし】			
12ヶ月前		【制約条件なし】		【制約条件なし】		
11ヶ月前					【制約条件なし】	
10ヶ月前					利用率 94.1%	芸術文化活動の場合
9ヶ月前						【制約条件なし】 利用率 92.6%

(イ) ホール需要の流動

市内の大・中規模ホールの利用率・抽選倍率は非常に高く、利用者の需要に応えきれない状況です。興行においては、公演開催時期の変更が困難なことも多く、ホールの確保が容易でない現状は、名古屋での公演を断念せざるを得ない「名古屋飛ばし」につながっています。

また、市内の大・中規模ホールの不足は、本市近郊で比較的アクセスの良い大・中規模ホールが需要の受け皿として利用される等、本市周辺施設の劇場需要にも影響を与えています。市民文化芸術団体は、出演者・来場者とも本市内在住の割合が高いことから、周辺市の劇場を代替施設とすることが少なく、開催そのものを断念するケースもあります。



（４）市内の大・中規模ホール不足がもたらす課題

市内の大・中規模ホール不足により生じている課題をまとめると、以下のようになります。

＜施設の利用機会の損失＞

- ・ 高い利用率及び抽選倍率により、公演会場となるホールを確保することが困難なため、文化芸術団体の発表の機会が減少（発表の機会が失われることにより、文化芸術活動が縮小・衰退する可能性が生じる）
- ・ 名古屋での公演を断念せざるを得ない興行主等が発生（名古屋飛ばしの加速）

＜文化芸術の鑑賞機会の損失＞

- ・ 上記の通り、施設の利用機会損失が生じることで、結果として市民の鑑賞機会が失われるため、文化芸術への関心の希薄化や、劇場離れが進展するといった悪循環につながる

＜その他＞

- ・ 利用実態より大きなホールへの利用申し込みが増加し、施設の高稼働状態が解消しない
- ・ 受付方法の見直しやホール間連携など、施設の運用方法の見直しが必要
- ・ 貸館需要が高く、自主事業の提供にも困難が伴う

3 劇場を取り巻く情勢

(1) 国の政策の動向

ア 文化芸術関連施策

国は平成 13 年に文化芸術全般にわたる法律として「文化芸術振興基本法」（基本法）を制定し、「文化芸術を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利」であり、「文化芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造することができるような環境の整備」を図ることなどを基本理念に掲げました。その後、観光やまちづくり、国際交流等幅広い関連分野との連携を視野に入れた総合的な文化芸術政策の展開がより一層求められるようになってきたことを受けて、同法は平成 29 年に「文化芸術基本法」に改正されました。その規定に基づき、平成 30 年には文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「文化芸術推進基本計画」が策定されています。また、平成 24 年には劇場・音楽堂等の活性化を図ることにより実演芸術を振興し、心豊かな国民生活や活力ある地域社会の実現等に寄与することを目的とした「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（劇場法）も制定されています。

文化芸術は、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等その他の分野も取り込んで、文化芸術によって生み出されるさまざまな価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用しようとするなど、より幅広い役割が期待されるようになっていきます。

平成 13 年 文化芸術振興基本法（平成 29 年改正）

文化芸術振興に関する国の基本理念を初めて明らかにした基本法。
地方公共団体が地域特性に応じた施策を主体的に実施することを求めた。
平成 29 年、「文化芸術基本法」として改正。

平成 24 年 劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（劇場法）

文化芸術振興基本法で掲げた理念に基づき、劇場・音楽堂・文化ホールなどの機能を活性化し、音楽・舞踊・演劇・伝統芸能・演芸の水準の向上と振興を図ることを目的として制定。通称「劇場法」。
劇場・音楽堂等は人々の心を豊かにし、活力ある社会を構築するための重要な文化拠点であることが明示された。

平成 25 年 劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針

劇場、音楽堂等の施設整備が先行して進められてきた中で、事業の活性化に焦点を当て、設置者または運営者が取り組むべき事項を定めたもの。
設置者・運営者に対し、運営方針の明確化や質の高い事業の実施、専門的人材の養成などを求めている。

平成 26 年 文化芸術立国中期プラン

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、世界に誇る日本各地の文化力を生かした文化プログラムを提供するため、そのロードマップと日本の目指す姿を示したもの。

専門人材の育成や地域の特性を生かしたまちづくり、海外へ向けた日本文化の紹介など、多岐にわたる事業展開を目指している。

平成 27 年 文化芸術の振興に関する基本的な方針（第 4 次基本方針）

令和 2 年までの 6 年間を対象に、我が国が目指す文化芸術立国の姿とその実現のための成果目標が定められる。特に、東京五輪・パラリンピック競技大会とそれに伴う訪日外国人受入れ対応及び東日本大震災からの復興に関して大きく取り上げられた。

平成 29 年 文化芸術基本法（文化芸術振興基本法の一部を改正する法律）

文化芸術の振興にとどまらず、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野を同法の範囲に取り込み、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用しようとする改正法。

平成 30 年 文化芸術推進基本計画

文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、文化芸術政策の目指すべき姿や今後 5 年間の基本的な方向性を示す計画。

目指すべき姿の実現のため、劇場・音楽堂等は、教育機関、福祉機関、医療機関等と連携・協力しながら、様々な社会的課題を解決する場として、その役割を果たすことが求められている。

平成 30 年 障害者による文化芸術活動の推進に関する法律

文化芸術が、これを創造し、又は享受する者の障害の有無にかかわらず、人々に心の豊かさや相互理解をもたらすものであることに鑑み、文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

令和 2 年 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律（文化観光推進法）

文化の振興を、観光の振興と地域の活性化につなげ、これによる経済効果が文化の振興に再投資される好循環を創出することを目的とする法律。文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進するため、主務大臣が定める基本方針に基づく拠点計画及び地域計画の認定や、当該認定を受けた計画に基づく事業に対する特別の措置等について定めている。

イ 公共施設建設に関する施策

社会情勢の変化や各種災害の発生などを背景として、以下のように数々の法律等が制定されており、公共空間や公共建築物に求められる機能や仕様等は高度化しています。

	法律等	背景・トピックなど
昭和 25 年	建築基準法制定	
昭和 54 年	□ 省エネ法制定 エネルギー使用の合理化等に関する法律	70 年代オイルショック
昭和 56 年	○ 建築基準法改正 新耐震基準	宮城県沖地震(S53) 耐震性能の強化
平成 5 年	□ 省エネルギー法制定 エネルギー等の使用の合理化及び資源の有効な利用に関する事業活動の促進に関する臨時措置法	IPCC 設置(S63) リオ地球サミット(H4) 環境基本法制定(H5)
平成 6 年	△ ハートビル法制定 高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律	
平成 12 年	○ 建築基準法改正 交通バリアフリー法制定 △ 高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律	阪神淡路大震災(H7) 耐震性能の強化 介護保険導入(H12)
平成 18 年	△ バリアフリー新法制定 (ハートビル法と交通バリアフリー法を統合) 高齢者、障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律 建築基準法 アスベスト使用禁止 大気汚染防止法 建築物の解体等の規制対象範囲拡大 廃棄物処理法 アスベスト含有廃棄物の適正保管、処分 労働安全衛生法施行令 石綿障害予防規則	アスベスト関連規制の強化
平成 20 年	□ 省エネ法改正	京都議定書締結(H14) 京都議定書発効(H17)
平成 26 年	○ 建築基準法施行令改正 特定天井	東日本大震災(H23) 劇場・ホール等の天井に対する耐震対策
平成 27 年	△ 高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準(劇場、競技場等の観客席を有する施設に関する追補版)	2020 年東京オリパラを見据えて、劇場・競技場等における設計標準
平成 29 年	□ 建築物省エネ法制定 建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律	

○ 建築基準法・耐震関連 △ バリアフリー法関連 □ 環境・省エネルギー関連

(2) 本市の上位・関連計画の整理

ア 名古屋市総合計画 2023 を踏まえた本市における文化振興の考え方

(ア) 少子化・高齢化に伴う人口構造の変化

- ・人口の自然減（出生－死亡）が緩やかに進むなか、他地域からの転入など社会増が自然減を上回っており、将来的に自然減が社会増を上回ることが推計されるため、人口の社会増に向けた取組みが求められます。
- ・社会的な人口増を支える 20～24 歳の転入数を増やすには、雇用の創出とともに芸術文化をはじめとするエンタテインメントの充実が、選ばれる大都市に不可欠な魅力向上につながるものです。

(イ) 価値観・ライフスタイルの多様化

- ・価値観やライフスタイルが多様化するなか、家族や世帯のあり方は変化し、単身世帯の増加や人と人とのつながりの希薄化は、地域社会のコミュニティ機能を低下させ文化や社会慣習の異なる外国人住民の増加も状況を複雑化させています。
- ・多様性（ダイバーシティ）を重視し、誰もが一人ひとりの個性や多様な価値観・生き方を認め合い、安心して生活し地域で支え合い活躍できる環境づくりが求められています。

(ウ) リニア中央新幹線の開業に伴う変化

リニア中央新幹線の全線開業により名古屋駅を起点に 2 時間以内で到着できるエリア人口は約 6,400 万、品川駅の 6,200 万、新大阪駅の 4,800 万を上回ることから名古屋駅が一大交流拠点として期待されています。しかし、開業後に本市の優位性を最大限に活かすことができなければ人口、経済活動が東京、大阪に吸い取られる「ストロー現象」が現実化する危険性があります。

(エ) 交流人口の増加

人口の大幅な伸びが期待できないなか、都市の活力を維持・向上していくためには、仕事や観光で訪れる旅行者など、交流人口の増加を図り都市の活性化につなげることが不可欠です。しかし、愛知県の訪日外国人訪問率は、東京や大阪京都を大きく下回っており、アジアをはじめとする世界の人々との交流を一層拡大するとともに市民のまちへの愛着や誇りを高めるなど都市魅力の向上・発信を進めていくことが必要です。

イ 名古屋市文化芸術推進計画 2025

(ア) 本市の文化芸術の課題

「名古屋市文化芸術推進計画 2025」では、本市の文化芸術の課題を以下のように示しています。

a 文化芸術に親しむ機会づくり

これまで文化振興事業団の取り組みや文化庁補助事業などにより進めてきているが、さらに名古屋の強みである伝統文化や、最新のアートを含め文化芸術に気軽に触れられる環境を整えていく必要がある。

b 文化芸術を育て、磨き、伝えていく環境づくり

将来の名古屋の文化芸術振興を担う人材や団体をさらに支援し、名古屋らしい歴史や文化芸術を活かした魅力発信の活動や、世代やジャンルを超えた交流機会の創出などを支えていく施策と体制づくりが求められる。

c 文化芸術の多様な価値の活用

文化芸術によって生み出される価値を観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などさまざまな分野との連携で好循環を生み出し、都市の力を向上させることが期待されており、必要な支援施策や体制づくりが求められる。

d 文化芸術を支える基盤づくり

新たな文化芸術体制などによる文化の力の活用の展開や、文化活動の基盤となる文化施設間の連携強化と役割分担の明確化が求められている。

また、新型コロナウイルス感染症による影響等を鑑み、非常時を見据えた対応が求められる。

(イ) 文化芸術推進の基本的な考え方

「名古屋市文化芸術推進計画 2025」における、本市の文化芸術推進の基本的な考え方は以下の通りです。本計画では、「三つの重点項目」のひとつとして「新たな劇場の整備（市民会館の改築）と文化施設の有機的連携」を掲げています。



a 親しむ

(a) 文化芸術を享受する機会の拡大

- ・文化施設での公演・展示を行う機会づくり
- ・パンフレットや案内等の多言語化
- ・アウトリーチ活動、まちかど展開など身近な場での体験の機会づくり
- ・地域の歴史文化や生活文化を新たに発見・開発する取り組みの推進

(b) 子ども・青少年の創造性・人間性の育成

- ・子どもが文化芸術に触れる機会の創出
- ・子ども・青少年の活動・発表・交流の場の提供・支援

(c) 国内外に向けた情報発信力の強化

- ・文化情報の一元的集約及び編集
- ・文化情報の国内外への発信
- ・市民が情報を共有できるネットワークづくりの支援
- ・文化情報のアーカイブ化

b 磨く

(a) 創造活動の支援

- ・新進芸術家などの支援
- ・コンペティションなどの開催
- ・文化芸術活動への表彰・顕彰

(b) 市民文化活動の支援

- ・市民文化活動への助成・助言
- ・まちなか空間の活用
- ・地域における文化活動の練習・創作・発表・交流機会の充実

(c) 文化・歴史資源の保存・継承・活用

- ・名古屋独自の文化・歴史資源を活用したやっとかめ文化祭等の実施
- ・歴史的建造物や歴史的町並みの保存・活用
- ・重要伝統的建造物群保存地区の魅力向上・発信
- ・名古屋城を核とした魅力づくり
- ・文化面での広域連携

c 活かす

(a) 社会的課題の解決への活用

- ・文化芸術を活かしたまちづくりに取り組む人材や中間支援組織の支援
- ・文化芸術による社会包摂・地域の活性化

(b) 観光・産業との好循環

- ・観光客や訪日外国人を視野に入れた文化芸術イベントの開催支援
- ・文化・歴史資源を活かした文化観光の推進
- ・クリエイティブ産業や文化芸術活動を支える産業の振興
- ・メディア芸術の活用
- ・金山南ビル美術館棟（旧名古屋ボストン美術館）の利活用

(c) 文化芸術を活かしたまちづくり

- ・まちなかでの文化芸術活動の推進
- ・名古屋駅、栄駅、金山駅地区などのまちづくりにおける広場や公共的な空間の創出・活用
- ・芸術家などが集まる場づくり

d 支える

(a) 多様な連携、体制の充実

- ・名古屋市文化振興事業団、名古屋フィルハーモニー交響楽団との連携強化
- ・多様な連携を図る意見交換の実施
- ・文化庁・芸術文化振興基金などの制度の活用
- ・ネーミングライツ、助成財団など民間活力の活用
- ・文化振興事業積立基金制度の活用
- ・非常時におけるアーティストの相談・支援

(b) 文化施設の整備、管理運営

- ・文化施設の適切な維持保全・改修・改築
- ・劇場法などを踏まえた文化施設の管理・運営
- ・文化施設における指定管理者制度の適切な運用
- ・非常時の対応等を想定した施設の検討

(ウ) 三つの重点項目

a 新たな文化芸術推進体制の構築（名古屋版アーツカウンシル）

高度人材の専門的かつ長期的な視点による支援・評価・調査研究等を通じ、より効果的に名古屋の文化振興及び魅力向上を図るため、新たな文化芸術の推進体制（名古屋版アーツカウンシル）を立ち上げます。

b ユネスコ・デザイン都市なごや／ユネスコ創造都市ネットワーク

創造都市ネットワーク等における国内外の都市と連携し、そのネットワークを通じて相互に経験・知識を共有し、人材の育成を図るとともに、文化芸術の持つ創造性をまちづくりや新たな産業などの他分野に活かす取り組みを進めていきます。

c 新たな劇場の整備（市民会館の改築）と文化施設の有機的連携

老朽化が著しい市民会館について、改築に向けた検討を進め、新たな劇場として整備するとともに、新たな劇場を名古屋の文化芸術発信のための中核施設に据え、他の文化施設と有機的に連携しながら、文化芸術のすそ野拡大（劇場文化の浸透）を目指します。

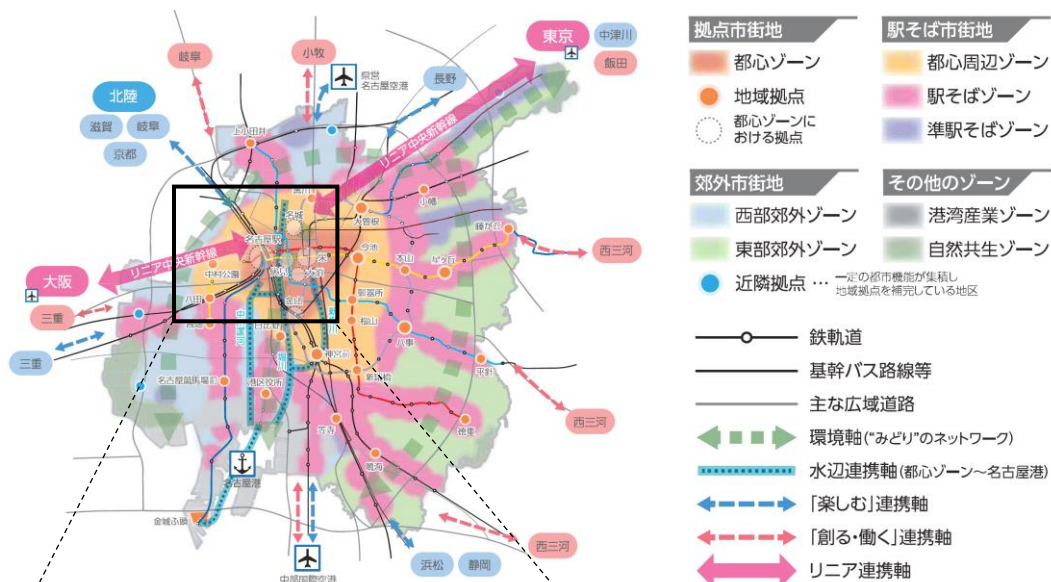
(3) 上位・関連計画等における金山地区のまちづくりの方向性

ア 名古屋都市計画マスタープラン 2030（令和2年6月）

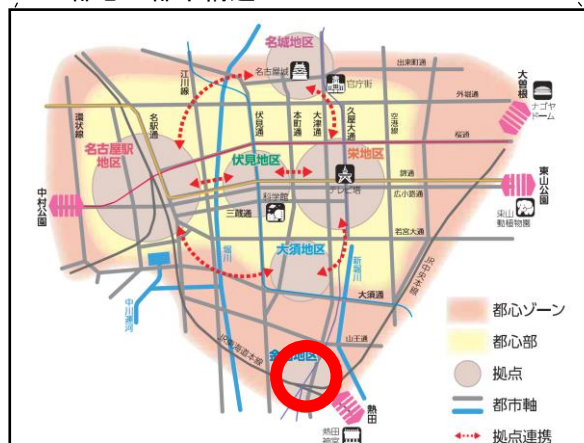
本市は将来都市構造として、「集約連携型都市構造」を掲げています。これは、駅を中心とした、歩いて暮らせる圏域に、商業、業務、住宅、サービスなどの多様な都市機能が適切に配置・連携され、さらに歴史・文化、環境や防災に配慮された、魅力的で安全な空間をつくるとともに、都心を中心に、圏域の中核都市として交流を活性化させ、創造的活動を生み出す空間づくりがなされている都市構造を示します。

金山地区は都心ゾーンの南に位置し、重点的にまちづくりを展開する地域のひとつとして、交通拠点機能に加えて商業・業務機能、文化・芸術機能、防災機能などを兼ね備えた便利で国際的な交流拠点の形成を目指します。

■ 将来都市構造



■ 都心の都市構造



イ 金山駅周辺まちづくり構想（平成 29 年 3 月）

金山駅周辺の開発により、駅利用客等来街者が増加している経緯や、歴史や動線の重要な軸上に位置していること等を踏まえ、新たな金山のまちづくりを展開していくために策定されたものです。

まちづくり構想の中で掲げているコンセプト、基本方針およびそれに基づき展開する施策は以下の通りです。

（ア）コンセプト

交通拠点から交流拠点へ～にぎわい・文化・芸術の継承と新たな役割を求めて～

（イ）基本方針 ※下線は、芸術文化に関連する事項

（1）にぎわいとうるおいの継承・発展

- ①都市機能の集積
- ②商業機能等の再編
- ③金山地域内外の回遊性の向上

（3）地域防災力の強化

- ①安全確保施設の充実
- ②防災意識の向上
- ③広域避難所の活用

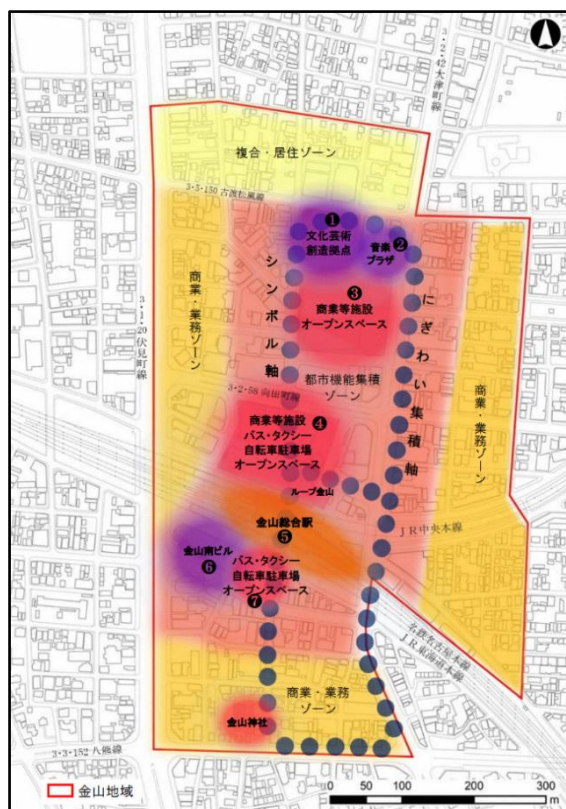
（2）文化芸術や創造拠点等の集客性向上

- ①市民会館の機能更新
- ②まちかどからの文化・芸術の発信
- ③金山南ビルの活用

（4）交通結節点の機能強化

- ①乗り継ぎ利便性の確保
- ②情報発信機能の充実
- ③来街者向けサービスの提供

（ウ）金山駅周辺まちづくりの将来イメージ



(4) 本市実施のアンケート結果の整理

本市では、施策についての課題・要望を把握し、施策に生かすため、市民の皆様からご意見を頂戴し、新たな文化振興施策を検討するための参考としています。

以下、平成 27 年度に実施した市政アンケートと、令和元年度に実施したネット・モニターアンケートの結果を整理します。

ア 調査結果(抜粋)

(ア) あなたは名古屋を「文化的なまち」だと思うか。

平成 27 年度第 4 回市政アンケート	令和元年度第 9 回ネット・モニターアンケート
「どちらかといえば文化的なまちだと思う」が 47.7%、次いで「どちらかといえば文化的なまちだと思わない」が 25.8%。	「どちらかといえば文化的なまちだと思う」が 41.3%、次いで「どちらかといえば文化的なまちだと思わない」が 32.6%。

(イ) 名古屋の文化や芸術などに関することで、あなたが誇れると思うものは何か。

平成 27 年度第 4 回市政アンケート	令和元年度第 9 回ネット・モニターアンケート
「名古屋にある文化施設（ホール・ライブハウス・劇場など）」が 30.3%で第 3 位。	「名古屋にある文化施設（ホール・ライブハウス・劇場など）」が 26.4%で第 4 位。

(ウ) 文化や芸術の分野において、今後どのような取り組みを充実させるとよいか。

平成 27 年度第 4 回市政アンケート	令和元年度第 9 回ネット・モニターアンケート
「気軽に参加、鑑賞できる催しを実施する」が最も多く 61.5%。	「気軽に参加、鑑賞できる催しを実施する」が最も多く 64.7%。

イ 結果から見られる傾向と課題

平成 27 年度と令和元年度を比較すると、「文化的なまちだと思う」と答えた人が 6.4% 減少している一方で、「どちらかといえば文化的なまちだとは思わない」と答えた人は 6.8%増加しています。また、名古屋の文化や芸術について誇れるものとして、「名古屋にある文化施設」が 3.9%減少して全体の 4 番目へ後退という結果になりました。名古屋市民会館をはじめ市内の文化施設や文化芸術活動に対する認識や興味関心は薄らいでいることが伺えます。

また、「文化や芸術の分野において、今後どのような取り組みを充実させるとよいか」という問いに対し、両年度とも「気軽に参加、鑑賞できる催しを実施する」と答えた人が最も多いことから、幅広い世代が気軽に訪れることのできる公演が求められているといえます。

（５）新型コロナウイルス感染症の影響と対策

令和２年１月、世界保健機関（WHO）の緊急委員会は、中華人民共和国湖北省武漢市における新型コロナウイルス関連肺炎の発生状況が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当すると発表しました。その後の日本国内での新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、日本全国の劇場では、次のような状況が生じました。今後の施設の整備、管理運営にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、安全安心に配慮した対応等が求められています。

ア 劇場・ホール運営

【影響】

- ・催事の激減による事業スキームの見直し
- ・感染予防対策による運営スタッフの負担と経費の増大

【対策】

- ・三つの密（密閉・密集・密接が生じる空間）の回避（公演中止・客席数制限）
- ・空気循環の確保（定期的な空気の入替え・換気能力の向上）
- ・不特定多数の人による接触の回避（テレワーク整備・ネットインフラの強化）
- ・業種別の新型コロナウイルス感染予防ガイドライン等に沿った運用
（マスクや手袋着用・消毒・アクリル板設置・キャッシュレス化等）
- ・備品装備（非接触システム（もぎり、殺菌ランプ）・検温キット・マスク等）
- ・規約等への「感染症対応」の記載



イ 芸術・文化催事に関わる人や産業

【影響】

- ・上演リスクの増大
（感染拡大によるキャンセルの発生・動員可能客席数減による赤字リスク）
- ・出演者、観客共に離隔をとることによる、緊密な空間が生み出す一体感の減退
- ・公演の機会減少による出演者の発表の場の減少
- ・アーティストや制作・技術スタッフの活動の継続困難

【新たな動き】

- ・オンライン配信等による新たな文化芸術の楽しみ方の普及

4 新たな劇場の方向性

(1) 現状の課題点

本市の課題を整理すると、以下のようになります。

課題

ア 市民の思い

- (ア) 「文化的なまち」というイメージや誇りの低下
- (イ) 気軽に文化芸術に親しめる環境の要望

イ 管理運営

- (ア) 施設規模と利用実態のかい離
- (イ) ポストコロナ時代への対応（換気能力の向上、ネットインフラの整備等）
- (ウ) ホール間の連携不足（役割分担を促す運用方法への見直し）

ウ 施設

- (ア) 現市民会館の機能性の低さ（バリアフリー構造への未対応、トイレ数の不足等）、遮音性能の低さ
- (イ) 会場不足による鑑賞機会・発表機会の喪失、市外へのホール需要の流出

(2) 本市が目指す方向性

現市民会館が抱える諸課題を克服するとともに、全市的な文化振興を促進するためには、市民会館の整備を単なる老朽化した建物の改築（建て替え）にとらえず、今後の市民会館に求められる役割や位置づけを再考し、「新たな劇場」としてその整備方針等を検討していく必要があります。

5 基本理念

(1) 基本理念

基本理念を以下の通り定めます。

〈 ミッション 〉

文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透）

文化芸術に対する市民の興味を喚起し、これまで劇場に関心がなかった市民にもその魅力を届け、劇場文化を市内に幅広く浸透させる

〈 位置づけ 〉

人々が楽しみ、引き込まれ、心打たれる 文化の薫り高い名古屋の心つながる象徴拠点

- ア 本市の文化芸術を象徴するランドマークとなり、国内外から多くの人々が訪れるデスティネーションを目指す
- イ 実演者・鑑賞者だけでなく、市民にとって「名古屋の誇り」となる
- ウ 「文化芸術が活きるまち名古屋」の中核施設として市内の文化振興をけん引

〈 役 割 〉

ポップからハイカルチャーまで、 より多くの人々が興味を引き起こされる公演の上演施設

- ア 多様な演目に触れる機会を提供し、より多くの人々が劇場に訪れる「きっかけ」を創出することで、文化芸術への興味を誘発
- イ 魅力ある事業を主体的に展開

市内の多様な文化活動を支え、促進する、 名古屋発／初文化の中核となる施設

- ア 文化芸術の創造活動拠点として、名古屋ならではの文化芸術を発信
- イ 文化芸術の普及・育成拠点として、充実したサポート体制を構築し、文化力を底上げ
- ウ 文化芸術活動の活性化を図り、その集大成を披露する「晴れ舞台」として存在感を発揮

市民が気軽に訪れる、人と文化の交流結節拠点 ～ 感動と出会い、まちと繋がる、開かれた劇場 ～

- ア 「開かれた劇場」としてまち全体に文化芸術による賑わいを醸成
- イ 「いつでも、誰でも、何かを経験できる」文化芸術が身近に感じられる魅力的な空間や機会を提供
- ウ 市民が日常的に訪れる、居心地の良い空間（居場所）を創出

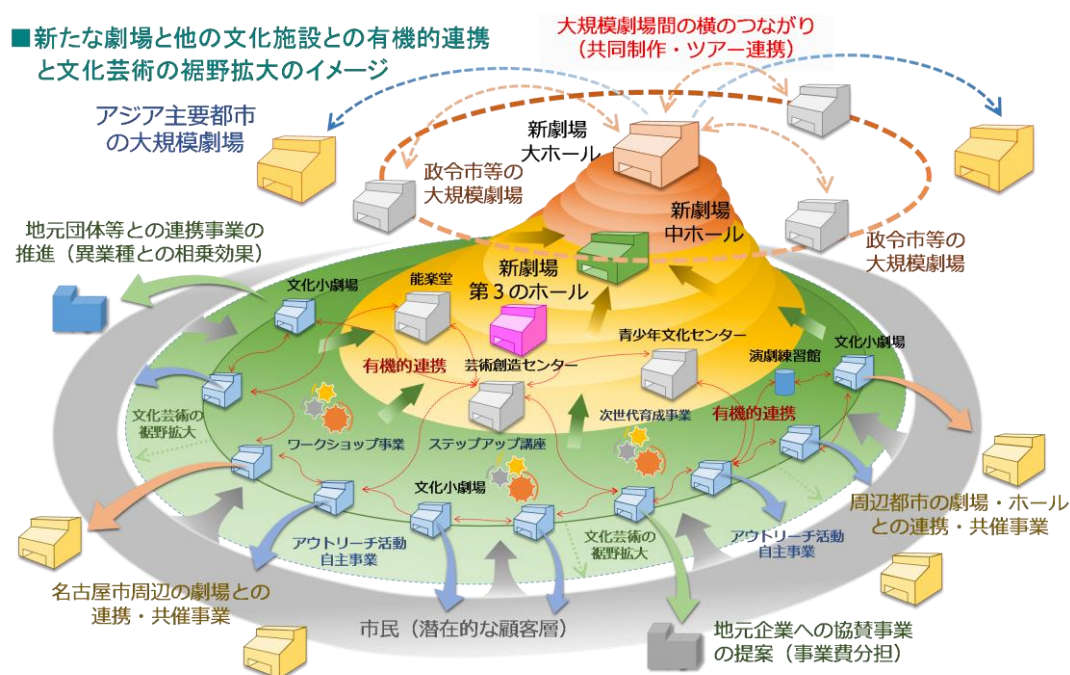
(2) 市内文化施設との有機的連携

新たな劇場を中核施設に据え、他の文化施設と有機的に連携しながら、文化芸術の裾野拡大を目指します。

例えば、事業においては、「創造発信型施設」である芸術創造センターや青少年文化センター等と連携して創造された文化活動が、中核施設である新たな劇場へと集約され、市民文化がより活発に発信される流れや、反対に、新たな劇場で形成された芸術文化が、文化小劇場などの地域拠点を通じて市民の身近なところへと広がっていくような展開の構築が考えられます。

文化施設の設置目的に基づき、それぞれの施設の役割を明確化するとともに、新たな劇場を中心とした有機的な連携を図ることにより、文化芸術に対する市民の興味・関心を広げ、文化団体等の多様な文化活動の促進を図ります。

さらに、国内外の他都市の大規模劇場と共同で制作・ツアー連携を行うことで、劇場同士の横のつながりを強化すると共に、地元企業や団体と連携することで、地域社会にも貢献します。



6 管理運営の考え方

(1) ポストコロナにおける劇場の考え方

ア 新しい価値観の出現と本質の不変

ポストコロナ時代はこれまでの常識と異なる考え方が生まれる可能性が高い一方でコロナ以前から大切にされてきた劇場の「本質（＝その瞬間、その空間で行われていることを出演者と観客が直接共有している状態）」は不変であると考えます。

イ 管理運営（事業等）にかかる検討

(ア) オンライン配信等による鑑賞機会の創出

- a リアルライブに比べてオンラインライブは相対的にチケット価格が安く、グローバル市場を視野に入れたより多くのファン層への鑑賞機会の提供方法の検討が必要です。
- b オンラインライブの急増により「投げ銭」を通じた金銭やギフトなど有料アイテムを提供する仕組みの導入の検討が必要です。
- c コメント機能やライブ中に出演者へスタンプを送ることができる応援機能など、双方向のコミュニケーションを実現する機能の導入の検討が必要です。

(イ) 5G・6G 時代を見据えたリアルとオンラインのハイブリッド公演の可能性

配信コンテンツが急増しているからこそ、実際に劇場空間へ行くこと、生身のアーティストに会うことの希少価値は高まっています。今後は、オンラインコンテンツの成熟化に伴い、リアルとオンラインのハイブリッド公演が増加していくことが予想され、その対応への検討が必要です。



(ウ) 来館者サービスのデジタル化への対応

今後、来館者への館内情報提供やチケット販売等の非接触型のデジタルサービス化が加速していくことも予想されます。そういった変化を見据えた対応への検討が必要です。

(2) 自主事業の考え方

ア 自主事業の基本的な考え方

上位計画や、新たな劇場の基本理念を踏まえ、自主事業の基本的な考え方について以下の4つの方針を軸として検討します。



イ 自主事業区分と内容

以上の基本的な考え方を踏まえ、自主事業区分を以下の方針を軸に検討します。



ウ 自主事業内容のイメージ

自主事業内容として、以下のイメージが考えられます。なお、具体的な内容については、貸館事業方針との相乗効果を生み出せるよう、引き続き検討を進めます。

また、自主事業は貸館事業の予約枠とのバランスを考慮した上で実施していくことを検討します。

鑑賞事業	A. “文化芸術の裾野拡大”コンテンツ 需要の高いコンテンツや、話題性のある良質なコンテンツなどを積極的に展開し発信。 B. 他都市との共同・連携事業 名古屋市だけでなく、東京や大阪などの大規模都市や、アジア圏、海外姉妹都市等との共同制作やツアー連携を積極的に実施。 C. メディア・動画配信サービス アーカイブ配信やライブ配信などを用いて、幅広い興味に応える多様なジャンルの演目を積極的に展開。
創造・活動事業	A. 文化芸術コーディネート事業 新たな劇場が中心となって、実演家や文化芸術を支える人材等の交流機会、市内の教育機関やその他文化施設等との連携を促進。 B. 先端芸術表現創造ラボ 新進アーティストやエンジニア等の連携を促進し名古屋発/初の先駆的な芸術を創造発信。 C. ソーシャルアート事業 様々なアーティストや市民によるワークショップ、アウトリーチ等を通して、障がいの有無や年齢国籍等を問わない多様な価値観を持つ表現活動を促進。
普及・育成事業	A. 次世代劇場人育成事業 アーティストや舞台技術者等多様なジャンルの人材育成を実施。 (芸術創造センター・青少年文化センター等との共同事業を検討。) B. 文化活動サポート事業 子どもの新しい体験の場や、大人・シニア世代の再チャレンジ・挑戦の場などを創出し、老若男女問わず多くの市民の文化活動をサポート。 C. 公開シアタークラス 「開かれた施設」として、市内の子どもや学生、若手アーティスト、社会人等を対象にオンラインを活用した多様な情報・レッスン・講義等の配信やオープンシアター（劇場見学会）を実施。
まちづくり・交流事業	A. エリアコラボレーション事業 金山エリア一体のにぎわい創出のため、金山駅や商業施設、教育機関等と連携し、まちフェスやパブリックビューイング、合同文化祭等を実施。 B. まちかどイベント事業 エントランス、屋外広場や近隣施設のスペースを有効活用し、日常的に鑑賞・交流機会を創出。 C. 金山カルチャー活性化事業 金山のまち独自のカルチャーを活性化して、ナイトタイムエコノミーも推進する事業を展開。

(3) 貸館事業の考え方

ア 貸館事業（施設利用サービス事業）の基本的な考え方

主体的かつ戦略的な貸館運営とするために、貸館事業を「施設利用サービス事業」と捉え、以下の3つの方針を軸として検討します。

I. 文化芸術の裾野拡大につながる利用の拡大

- ・設置目的の達成に資する柔軟な利用規則の検討
- ・人々の興味を誘発する、話題性のある演目の積極的な利用促進

II. アーティストの多様な創造活動の受け皿

- ・先駆的/実験的な試みを伴う創造活動に対する施設利用の積極的促進
- ・多様な演出に対応する、柔軟なサービスの提供

III. 地域文化芸術団体等への積極的なサポート

- ・市民に寄り添った居心地の良いサービスの提供
- ・劇場の特性を踏まえたより良い利用方法の提案

イ 今後の検討事項

基本理念の達成に資する柔軟な利用規則とするため、今後の検討事項として以下の項目が考えられます。

また、貸館事業においても市内施設の有機的連携の実現に向けて、市施設同士だけでなく、施設規模が近似している愛知県芸術劇場と連携した体制等も考えられます。

(ア) 共催事業（戦略的貸館）のあり方について

- ・共催を活用した積極的な公演誘致の方針

(イ) 利用規則の基本的な考え方

- ・開館時間、休館日など施設全体の運営規則に関する基本的な考え方、方向性

(ウ) 貸出規則の基本的な考え方

- ・貸出時間、使用料、減免など、ホールやその他施設等の貸出規則に関する基本的な考え方、方向性

(エ) サービス向上のための設備整備について

- ・今後のデジタル化に対応できる施設整備の考え方、方向性

(オ) 市内施設の連携体制について

- ・市内施設一体的な条例のあり方
- ・市内県有施設との相乗効果を生み出す運用 等

(4) 運営組織の考え方

ア 基本的な考え方

新たな劇場が本市文化施設の中心となり、市内文化施設と有機的連携体制を構築できる運営組織とするために、以下の方針を軸として検討します。

I. 全市的な事業運営体制の構築

- ・有機的連携の達成に資する、安定して継続的に事業を提供し続けることができる体制の構築
- ・市内文化施設のみならず、他都市施設・地域の企業・団体等とも連携できる体制の構築

II. 専門性を持った人材の配置

- ・新たな劇場の理念を実現するための事業を先導できる高い専門性をもった人材の配置
- ・文化芸術活動の活性化や水準向上を図るため、地域文化芸術団体等への支援を実施できる専門人材の配置

イ 運営主体の検討

公の施設の管理運営をする主体としては、大きく以下の2つがあります。

(ア) 直営（一部業務委託を含む）

設置者である地方公共団体の所管組織が自ら運営すること。（当該地方公共団体と関係の深い公益財団法人等が管理委託を受けて運営することを含む。）

(イ) 指定管理者

地方公共団体により指定された管理者に包括的な管理運営業務を代行させること。民間事業者、財団、NPO等の法人が単独、または共同事業体を構成し業務に当たる。

<主な特徴>

(ア) 直営（一部業務委託を含む）	(イ) 指定管理者
○文化施策を直接反映させることができる ○地域住民との協働が容易	○サービスの向上 ○高いコスト意識による市負担の軽減
×人事異動等により ノウハウが継承されにくい ×高コスト	×非効率・非収益事業に消極的 ×指定期間の切替による人材・事業の不安定化

運営組織は一般的に以下のような部門により構成されています。

部門		担当	内容
統括		館長、副館長	全体のマネジメント・統括責任
		芸術監督	自主事業の芸術性に係る責任、監督
事業	自主	プロデューサー、制作 等	自主事業の企画立案・制作 等
	貸館	利用受付、営業、 インフォメーション 等	貸出利用対応 等
舞台技術		舞台、照明、音響、映像	舞台特殊設備の操作、維持管理 等
維持管理		設備、清掃、警備	ビルメンテナンス 等
その他		広報、票券、友の会運営、 フロントスタッフ、ボランティア 等	広報・チケット販促、友の会運営 等

新たな劇場において全市的な事業運営体制を実現する運営主体を検討するにあたり、想定される運営主体パターンは以下が挙げられます。

	パターン①	パターン②	パターン③	パターン④
維持管理	指定管理者 (民間・公益財団法人)	指定管理者 (民間)	指定管理者 (民間)	指定管理者(民間)
貸館事業				直営・公益財団法人へ委託
舞台技術				
自主事業				
特徴	○民間事業者の場合、そのノウハウを活用した新しい事業が期待できる。 ○公益財団法人の場合、市の文化施策の反映が容易。 ○事業と貸館の連携が容易。	○民間事業者のノウハウを活用した新しい事業が期待できる。 ○公益財団法人により市の文化施策の反映が容易。 ○指定管理者が変更されても、公益財団法人により事業の継続性が担保される。 ○事業と貸館の連携が容易。	○公益財団法人により、市の文化施策の反映が容易。 ○指定管理者が変更されても、公益財団法人により事業の継続性が担保される。	○公益財団法人により、市の文化施策の反映が容易。 ○指定管理者が変更されても、公益財団法人により事業の継続性が担保される。 ○事業と貸館の連携が容易。
課題	△民間事業者の場合、事業の仕様を具体的に表さないと、市の文化施策の反映が困難。 △指定管理者が変更されると、事業の継続性が失われる恐れがある。	△運営者が分かれるため、強固な連携・運営体制が必要。 △事業の担当区分を明確にする必要がある。	△事業に民間のノウハウを活用することができない。 △事業と貸館の連携が困難。	△事業に民間のノウハウを活用することができない。
事例	名古屋市民会館	高知市文化プラザかるぽーと	J:COM ホール八王子	いわき芸術文化交流館アリオス

いずれの場合もメリット、デメリットがあるため、既存の運用事例等もふまえながら、最適な主体を今後検討していきます。

ウ 専門家の活用の検討

新たな劇場のミッションである「芸術文化の裾野拡大」を達成するためには、独自の事業展開と同時に、市内の連携を促すことが求められます。専門家の活用を検討するにあたり、本構想における事業の専門家を下記のように定義付けます。

専門家	本構想における定義
芸術監督	「新たな劇場の顔」また「芸術面の総責任者」として、創造活動の主導、および自主事業における芸術面の責任と権限を有する。
プロデューサー	「当該ジャンルの専門家」として、市内で行われる創作・普及・育成活動の質・指導・助言・予算実績管理、および市内外との共同事業や連携事業等の推進に関する責任と権限を有する。
コーディネーター	「新たな劇場と地域をつなぐ専門家」として、市内外における文化芸術活動のバックアップやさらなる連携の促進、およびアウトリーチ等の地域連携活動の推進に関する責任と権限を有する。

<想定される専門家の配置パターン>

	(ア) 単独の専門家	(イ) 複数の専門家
プラス面	・当該人材の感性や蓄積を活かした特色のある事業展開が期待できる ・著名人材を抱えることで施設の宣伝効果が期待できる	・独善的にならず、専門家の持ち味を活かした多様性のある活動が可能になる
マイナス面	・事業に偏りが生じるおそれがある ・多忙な著名人の場合、地域との関係を築けず名目的なものになるケースがある ・行政と芸術文化のパイプ役となる適材が少ない ・事業運営の全権を個人に委ねるためリスクも大きい	・活動における強烈的個性をもちにくい ・一貫性のない企画になる恐れがある
課題	・リスクヘッジとして人選をコンペで行ったり、任期権限の明確化をはかったりするなどの方策をもつ必要がある ・当該人材の発想を生かせる支援スタッフの配置が欠かせない	・権限の分散化により、個人への権限集中の弊害は免れるが、企画全体への責任などを明確にしていく必要がある
想定体制	①：芸術監督1名のみ配置 ②：プロデューサー1名のみ配置 ③：コーディネーター1名のみ配置	A：ジャンル毎に同列の専門家配置 （複数芸術監督制、複数プロデューサー制、複数コーディネーター制） B：異なる専門家の複数配置 （芸術監督1名とジャンル毎のプロデューサー、ジャンル毎のプロデューサーとコーディネーター、等）

今後、事業計画（自主事業・貸館事業）を策定していくことに併せて、それを実現させるための最適な専門家の体制を検討していきます。また、舞台技術、広報宣伝、経営等における専門家のあり方についても、併せて検討を進めます。

エ 今後の検討事項

新たな劇場の基本理念を実現するのに最も適していると考えられる運営主体・専門家の配置の体制について、想定される体制の利点や課題点を今後さらに精査し、以下の項目等について検討を進めます。

(ア) 運営主体の体制

- ・本市の政策の実現に向けた中長期的な体制の検討
- ・仮に運営主体が複数になる場合は、その役割分担・体制の精査
- ・設置者（本市）と運営主体の機能・役割分担および主体的な協働体制の検討

(イ) 専門家の配置体制・役割

- ・各種専門家（事業（自主・貸館）、舞台技術、広報宣伝、経営等）の体制・役割
- ・設置される施設の利用主体（プロユース・市民利用）へのサービス水準の最大化を念頭に置いた人員配置

(ウ) 組織図・配置人数の検討

(エ) 施設運営費の想定とそれに対する行政負担の考え方の整理 等

（５）広報宣伝の考え方

ア 広報宣伝の基本的な考え方

事業の告知だけでなく新たな劇場の存在・魅力を広く浸透させると同時に、ターゲットにピンポイントで発信する広報宣伝の仕組みを検討します。

I. 全市的プラットフォームによる情報集約

- ・継続性・公共性のあるワンストップの全市の情報プラットフォームの構築
- ・名古屋圏域のイベント情報やアーティスト情報、施設概要等の情報を横断的に集約し発信できる仕組みの構築

II. 最新技術の導入による柔軟な広報戦略

- ・最新技術を駆使し、高齢者が使いやすい予約システムや、若者が気軽に購入できるチケットシステム等を導入
- ・AI 技術によるビッグデータ分析等の手法により、特定のターゲット層へ向けた告知や、需要に応じたストリートビジョン広告等を積極的に展開

III. 多種多様なメディアの活用

- ・文化芸術に関心の薄い方々にもイベント情報が届くよう、アプリや SNS などのネットワークを活用した広報を実施
- ・地元テレビ局や動画配信サービスと連携し、「劇場×映像」の新しい告知方法を開発し発信

イ 今後の検討事項

今後の文化芸術における広告媒体はインターネットが主流であり、動画配信サービスや SNS 等との連携が必要不可欠と考えられます。その一方で、子どもや高齢者にとって安心安全で分かりやすい告知方法も求められます。また、他の文化施設との有機的連携構築のために、全市的な情報の集約・発信方法も必要になると考えられます。

それらを踏まえ、今後の検討事項として、以下の項目が考えられます。

- (ア) 広報担当者の組織体制
- (イ) IT 等の最新技術活用
- (ウ) 具体的な広報媒体と手法 等

（６）評価制度の考え方

新たな劇場の基本理念を達成するためには、事業評価等による施設の運営状況の確認・改善や、事業方針の検討・見直しを定期的に行う必要があります。他都市事例等も参考に、第三者評価機関の設置検討や「名古屋版アーツカウンシル」による評価可能性の検討等、評価を行う体制や評価基準などを今後幅広く検討していきます。

7 施設の考え方

(1) 施設整備の基本的な考え方

新たな劇場の整備にあたって、以下のような点に留意し検討します。

ア 開かれた劇場

「いつでも、誰でも、何かを経験できる」総合的な文化芸術交流拠点として、誰もが気軽に訪れる開かれた劇場を目指します。

望ましい姿

- ・施設内における多様な文化芸術活動が建物の外にあふれ出る、開放的な空間
- ・誰もが気軽に文化芸術に触れられる空間
- ・施設内部と連携して様々な活動が行われ、交流が生まれる外部空間
- ・人々が滞在したくなる居心地のよい空間

イ ランドマーク性

本市の文化芸術を象徴する施設として、ランドマークに相応しい外観を備えることにより、国内外から多くの人が訪れる、魅力的な「デスティネーション」を目指します。

望ましい姿

- ・アプローチおよび劇場到達時に視界に入る魅力的な施設の外観

都市のランドマークとなる海外のホールの事例



台中国家歌劇院



エルプフィルハーモニー・ハンブルク

ウ 機能性に優れた劇場

本市の文化芸術を象徴する施設として、従来の劇場機能を担保することはもちろん、最新機能・設備を導入することで、質の高い公演や先駆的な演目に対応できる劇場を目指します。

また、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい劇場を目指します。

望ましい姿

- ・最新機能・設備の導入
- ・使いやすさに考慮された動線、諸室の配置

エ アプローチ環境（周辺市街地含む）

劇場周辺市街地との一体的なまちづくりの観点から、まちの回遊性が促進され、まちの魅力を増幅させるアプローチ環境を検討します。

望ましい姿

- ・誰もがアクセスしやすく、安全な歩行環境
- ・まちかどから文化芸術活動があふれ劇場への期待感が高まる環境
- ・劇場の余韻を感じながら、途中で飲食を楽しむ等多様なコンテンツを有する動線

オ 劇場不足解消に向けた新ホールの増設

大・中規模ホール不足が文化芸術にもたらす様々な弊害の解消に向けて、ポストコロナ時代を見据えた機能を備える新ホールを増設し、新たな魅力の創出を目指します。

望ましい姿

- ・劇場不足を解消し、これまでになかった利用方法が可能な新たなホールの増設

カ 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた劇場施設

新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響は幅広く、劇場施設のあり方にも一石を投じています。従来からの劇場の魅力を維持しつつ、既存の概念に囚われない新たな考え方の導入を検討します。

望ましい姿

- ・ストリーミング配信対応等のリアル場に留まらない多様な鑑賞体験を提供でき、将来のデジタル技術革新にも対応できる拡張性を持つ劇場
- ・非接触、抗ウイルス（光触媒等）素材・加工の使用、殺菌設備（UV）を完備し、ソーシャルディスタンス確保に対応した劇場



ライブ開催から配信までを
テレビ局がサポート
EXシアター六本木
(東京都港区)



4K放送対応が完備した
スタジオで番組収録も可能に
COOL JAPAN OSAKA
(大阪市)



非接触型のもぎりゲート
Elbphilharmonie Hamburg
(ドイツ)



屋外開放が可能な劇場
立川ステージガーデン
(東京都立川市)

(2) 新たな劇場の需要及び課題

現市民会館を取り巻く情勢や課題、利用状況の分析結果等から導き出される需要および課題より、新たな劇場が担うべき理念・役割を果たすために必要となる施設機能や規模・性格を抽出しました。

ア 第1ホール（現市民会館大ホールの役割を引き継ぐホール）

「新たな劇場」の需要および課題

- ・ 現市民会館では、軽音楽に次いで演劇の利用割合が高いものの、本格的な実演芸術よりは、子ども向けのミュージカルやキャラクターショー等での利用が多い。
- ・ 興行等の軽音楽ジャンルに対するニーズがとても高い一方、クラシックへのニーズも一定数見られる。
- ・ 利用割合の高い軽音楽、演劇ジャンルの利用規模は 2,000 人付近に集中している。
- ・ 愛知県芸術劇場大ホール（2,480 席）もあるため、大規模ホール同士の規模的なすみ分けが必要である。

イ 第2ホール（現市民会館中ホールの役割を引き継ぐホール）

「新たな劇場」の需要および課題

- ・ 興行需要の最も高い 1,500 席規模のホールが相次ぎ閉館し、現市民会館の利用実態も 1,000～1,500 人の利用帯において、あらゆるジャンルで満遍なくニーズが高い。
- ・ 興行の採算性の観点から、プロモーターを中心に現市民会館中ホールの客席数の拡大を望む声が多い。
- ・ 「邦舞・邦楽」の利用が多いという地域的特色がある一方、現市民会館は花道設営の関係上、客席面の勾配が低く、客席から舞台上の演者の足元が見えにくい点などの鑑賞環境の課題解消が必要である。

ウ 第3ホール（新規増設のホール）

「新たな劇場」の需要および課題

- ・ 市内施設が総じて高稼働であり、市内の文化芸術団体等から多くの要望が出されていることを踏まえ、ホールの増設が必要である。
- ・ 現市民会館の中ホールの利用実態の中で最も多い座席規模は 600～900 席である。
- ・ 需要動向を見ると演劇利用が非常に多いが、実演芸術に適した規模である 800～900 席のホールが市内には存在しない。
- ・ 演者と観客の一体感を生み出す空間として、演劇面で評価の高いホールは 800 席程度との声が多い。
- ・ 青少年文化センター・芸術創造センターなど中規模ホールとのすみ分けを考慮して、多目的としながらも演劇・軽音楽の利用に比重を置いた機能を充実させる方向性が考えられる。

エ その他諸室・共用部

「新たな劇場」の需要および課題

- ・市内施設におけるリハーサル室や練習室等の利用率は90%以上で高止まりしており、慢性的に練習場所が不足している。
- ・鑑賞前後の時間を快適に過ごせる飲食施設や、市民の憩いの場となるオープンスペースなど、誰でも気軽に訪れることができる「開かれた場所」としてのニーズが高い。
- ・ホールでの本番を想定したリハーサル室や練習室を備えることで、文化芸術活動の活性化を促すとともに、ホールと独立した利用ができるよう来場者動線や防音・防振に配慮する必要がある。
- ・本番公演のない時間帯でも市民の文化芸術活動の様子を他の利用者が目にすることで、新たな発見や興味につながり、誰もが訪れ易い、にぎわいや人々の交流が生まれる劇場とする。
- ・オープンスペース等を活用することにより、誰もが気軽に発表でき、楽しめる「開かれた劇場」とすることで、市民にとって「居心地の良い場所」となる空間が必要である。
- ・劇場周辺とのつながりや来場者の回遊性を意識したハード整備・ソフト展開を進めることで、劇場を核として、まち全体で相乗効果を発揮する視点が必要である。

(3) 施設構成

新たな劇場は以下の機能を有する施設で構成します。

機能	基本コンセプト	諸室名称	諸室用途概要
ホール機能	聴くホール	第1ホール	・客席数 2,000～2,200 席を想定 ・音楽を中心とした多様なジャンルの商業公演に利用
	観る・魅せるホール	第2ホール	・客席数 1,300～1,500 席を想定 ・演劇・舞踊から伝統芸能まで魅力のある公演や市民の文化芸術活動の発表
	体感するホール	第3ホール	・客席数 800～900 席を想定 ・収容人数は 1,700～1,800 名を想定 ・演劇や軽音楽の公演、多様なジャンルの新演出に対応
創造・活動拠点機能	あらゆる人々の交流結節拠点	スタジオ	・音楽・演劇・ダンス等練習の場 ・各ホールのリハーサル室を兼ねる
		練習室	音楽・演劇・ダンス等練習の場
		会議室	各種会議や研修の場、他多用途に利用
交流機能		共通ロビー・イベントスペース	・施設全体の共通ロビー空間 ・鑑賞目的のない人でも気軽に訪れることができる開かれた場 ・日常的にイベントを実施し、施設に賑わいをもたらす場
		カフェ等	施設併設のカフェやレストラン、飲食店
		情報スペース	文化芸術に関する情報を一元的に集約したスペース
その他		管理機能（施設事務室、防災センター、守衛室 等）、駐車場 等	

ア ホール機能

ホール機能は3つのホールで構成します。

(ア) 第1ホール

基本コンセプト	「聴くホール」 ・名古屋における文化芸術のランドマークとなり、国内外から集客する「名古屋の実演芸術の殿堂」にふさわしい空間 ・東海圏におけるクラシック音楽の発信拠点として重要な役割を担ってきた現市民会館の機能を継承・発展し、日本を代表するホール ・優れた音環境を整備、国内外から質の高い実演家を引き寄せる
規模・性格	・2,000～2,200席 ・主目的／音楽（軽音楽・クラシックなど） ・プロセニウム
主な利用形態	・ポピュラー音楽を中心とした国内外著名アーティストの興行 ・名古屋フィルハーモニーや他交響楽団によるクラシック音楽 ・ミュージカルや商業演劇等の公演 ・話題性の高い演目や最新機能・設備による最先端の演目の上演・鑑賞機会提供 ・従来の貸館における興行利用と、運営者による自主事業利用をバランスよく実施

(イ) 第2ホール

基本コンセプト	「観る・魅せるホール」 ・多様な公演需要に対応し、話題性が高く魅力のある公演の場として選ばれる劇場 ・市民の多様な文化芸術活動を発表する「ハレの場」に相応しい上質な空間
規模・性格	・1,300～1,500席 ・主目的／軽音楽、邦舞・洋舞など ・プロセニウム
主な利用形態	・現市民会館でも利用されている邦楽・邦舞等といった花道等を活用した伝統芸能公演 ・バレエ・現代舞踊など地元洋舞家団体等の公演 ・市民の文化芸術活動のハレの場となる公演 ・音響反射板を用いたクラシック音楽の公演 ・多様なジャンルの商業公演 ・実演芸術の魅力に触れる機会を市民に提供する自主事業 ・話題性の高い演目や最新機能・設備による最先端の演目の上演・鑑賞機会提供

(ウ) 第3ホール

基本コンセプト	「体感するホール」 ・様々な演目に対応し、ステージ・客席を一体として演出可能な空間 ・最先端の演出・演目に対応できる設備 ・多様なジャンルの先駆的な演目の上演に対応可能
規模・性格	・800～900席、スタンディング時1,700～1,800人程度 ・主目的／演劇・軽音楽など ・平土間空間・可動客席とし、舞台位置・客席配置を変更することで様々なステージ形式に対応可能 ・ステージと客席を一体の空間として演出可能
主な利用形態	・現在の中ホールで行われている演劇や軽音楽の公演 ・最新機能/設備による先駆的、実験的な演出による体験型コンテンツ ・アート・舞台芸術の融合作品等の上演 ・ナイトタイムエコノミーを想定したエンタテインメント

イ 創造・活動拠点機能・交流機能

ホール機能以外に、誰でも気軽に訪れ、にぎわいや交流が創出される「開かれた場」として、活動拠点機能および交流機能を整備します。

ホール以外の諸室

基本コンセプト	「あらゆる人々の交流結節点」 ・「いつでも、誰でも、何かを経験できる」総合的な文化芸術交流拠点 ・外部空間と一体となってまちに賑わいをもたらす、訪れやすく立ち寄りやすい、常に開かれた場 ・新たなアイデアや取り組みを誘発してくれる空間
---------	---

(ア) 創造・活動拠点機能

あらゆる人々がいつでも何かを経験できる、活動拠点機能を整備します。

音楽からダンス、芝居といった多様なジャンルに対応し、ホールでの本番を想定したリハーサルや日常的な練習活動、ワークショップの開催等、様々な活動を想定した諸室を整備します。

主な諸室構成

スタジオ

- ・大ホール、中ホールの主舞台と同程度の広さを確保します。
- ・最先端の演出・演目に対応できる音響や照明などの設備を備え、本番利用にも対応可能とします。
- ・各ホールのリハーサル室を兼ねることを想定します。
- ・音や振動に配慮した性能を確保します。

練習室

- ・合唱や吹奏楽、バンドなどの電気楽器、ダンス等が練習できる空間とします。
- ・音や振動に配慮した性能を確保します。

会議室

- ・各種会議や研修等、多用途での利用が可能な空間とします。
- ・各ホールの控室としても利用可能な配置とします。

(イ) 交流機能

人々が気持ちよく滞在し、文化芸術に関わらず多様な活動や交流を生む、交流機能を整備します。

鑑賞や練習などの目的がなくても、居心地よく、一日中過ごしたくなる場として、気軽に文化芸術に触れられる諸室や空間を整備します。

施設利用者にとって使いやすい諸室構成や配置、動線となるよう留意するとともに、外部空間との連続性にも留意し、敷地周辺環境と一体的に検討します。

主な諸室構成

共通ロビー・イベントスペース

- ・鑑賞目的のない人でも気軽に訪れる、常に開かれた場として、共通ロビーを整備します。
- ・共用部には日常的にイベントを行うことが可能なスペースを設け、にぎわい創出の場とします。イベントがない場合には、椅子・テーブルを設置し、市民の憩いの場としての利用を可能とします。

情報スペース・カフェ等

- ・共通ロビーに面した箇所には、市内の文化芸術に関する情報を一元的に集約したスペースの他、カフェ等の設置を検討し、市民の来館を促します。

ウ 管理機能

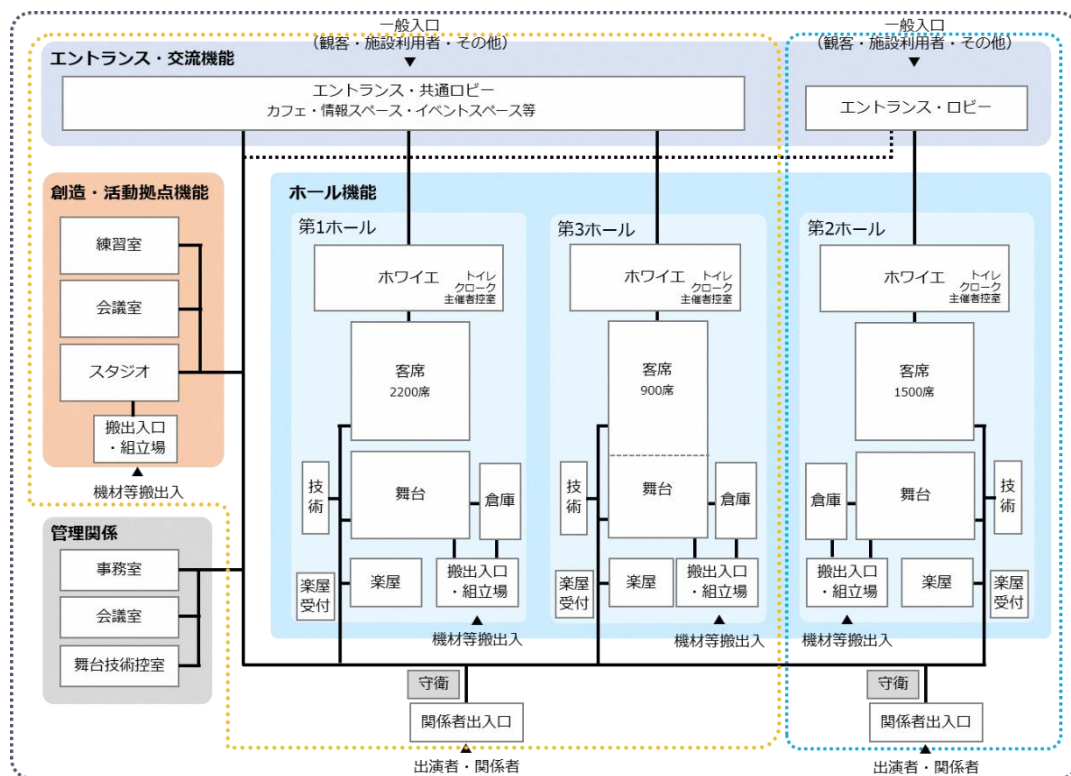
劇場施設の管理機能として、管理運営スタッフの執務スペースや利用者打合せの部屋、受付機能などを設けるとともに、訪れやすく開かれた施設事務室を整備します。また、施設全体の防災センターや守衛室なども整備し、施設管理の一元化を図ります。

エ 駐車場

利用者の駐車場については、市の条例に基づく附置義務台数を確保した上で、周辺の交通への影響等を総合的に勘案し、施設管理者用、主催者用、搬入トラック用などの駐車場と併せて適切な台数を検討します。

施設機能連関図

各施設機能の連携利用に留意し、観客動線と裏動線（バックヤード）の明確な分離や、使いやすさを考慮した施設配置および動線を検討します。

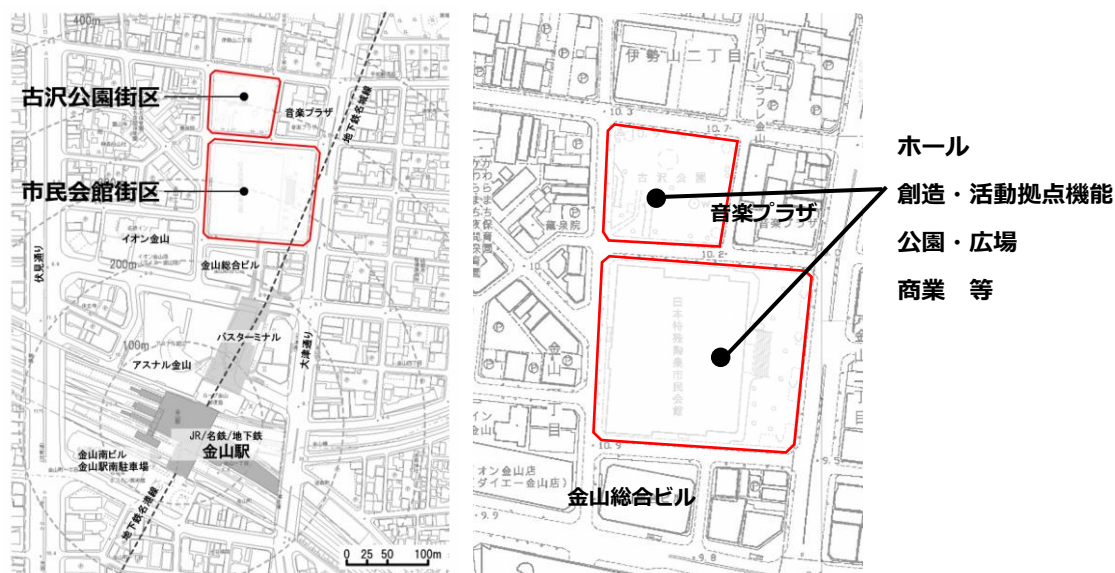


(4) 敷地環境

所在		名古屋市中区金山1丁目
最寄駅		金山駅より約200m、地下鉄出口直結
敷地周辺図		
基本情報	面積	約 20,000 m ² 市民会館街区：14,205 m ² 古沢公園街区：0.52ha (5,200 m ²)
	前面道路	北側：市道（幅員 15m 程度） 東側：3・2・42 大津町線（幅員 30m 程度） 南側：市道（幅員 15m 程度） 西側：市道（幅員 15m 程度）
	用途地域	商業地域
	建ぺい率	80%
	容積率	市民会館街区：800% 古沢公園街区：500%
	高度地区	—
	防火指定	市民会館街区：防火地域（集団防火） 古沢公園街区：準防火地域 防火地域（路線防火）
	立地適正化計画の区域	居住誘導区域内、都市機能誘導区域内
	その他地域地区	緑化地域、駐車場整備地区、特定用途誘導地区
備考		一部（古沢公園）が都市計画公園

(5) 敷地における整備方針

市民会館街区及び古沢公園街区を活用し、ホール機能、創造・活動拠点機能、公園・広場及び商業等の整備を検討します。



8 整備事業概要の検討

(1) 事業規模

新たな劇場の施設構成や配置等の検討に併せ、以下のような劇場関連部分の概算事業費について今後検討のうえ、算定する予定です。

ア 施設整備費
・ 建設工事費 ・ 解体撤去費および用地整備費 等
イ 運営費
・ 事業運営費 ・ 維持管理費 等
ウ 支出総額
・ 一定期間の支出総額（利息等を含む）

事業運営費においては、各種助成金のほか、友の会制度や企業メセナとの連携等、本市内企業との提携についても検討を行い、市の財政負担の軽減を図る必要があります。

(2) 期待できる経済波及効果

事業規模の検討結果等を踏まえ、劇場による以下の項目について、経済波及効果を定量的あるいは定性的に示すための検討を行う予定です。

ア 建設による効果
・ 劇場および関連施設の建設による効果
イ 運営による効果
・ 劇場の運営に伴う効果（公演等のチケット販売、イベント関連消費等（テナントや売店等付帯施設による経済活動））
ウ 地域活性化による効果
・ 劇場周辺への人の流れ・回遊が生みだす消費、金山駅周辺地区など周辺への観光消費等による効果 ・ 民間複合開発とした場合にもたらされる関連消費など

（３）事業手法

事業手法の検討にあたっては、従来方式をはじめとした全て公的資金により整備する方法と、PFI 方式などの一部民間資金を活用し整備する方法が想定されます。

PFI 方式の中には、運営の自由度を確保するため、施設の維持管理と運営を分離する方法もあります。施設整備、維持管理、運営のそれぞれの視点を踏まえ、想定される手法を分析し、導入適性を検討します。

<検討の視点（例）>

- 市の意向、要求性能の反映しやすさ
- 民間ノウハウの活用
 - ・施設・諸室の機能、使いやすさ
 - ・維持管理の容易さ
 - ・意匠・デザイン
 - ・施工者の技術ノウハウの活用
(施工方法の工夫等による建設コスト抑制、工期短縮等)
 - ・設計に対する運営者の意向の反映
 - ・運営者のノウハウの活用
- 建設費の財政負担（平準化） 等

<官民連携手法の例>

項 目	概 要
PFI・BTO 方式	事業用地の民間施設部分に事業用定期借地権※を設定し、民間事業者が民間施設を整備する。ホールは、PFI 法に基づき、民間事業者が設計・建設・維持管理・資金調達を一括発注により実施する。
DBO 方式	事業用地の民間施設部分に事業用定期借地権※を設定し、民間事業者が民間施設を整備する。ホールは、民間事業者が、設計・建設・維持管理を一括発注により実施する。
建物賃貸借方式 (事業用定期借地権)	事業用地に事業用定期借地権※を設定し、民間事業者が民間施設とホールを設計・建設・所有し、市は、建物賃貸借契約を締結し、ホールを使用する。

(※) 事業用定期借地権：住宅を可とする場合は一般定期借地権

9 スケジュール（案）

年度	内容
2021 年度（R3 年度）	新たな劇場の基本構想の策定・公表
2022 年度（R4 年度）～	新たな劇場の基本計画の策定 公募準備・公募・事業者選定 設計・工事・竣工